

令和4年度

町内自治会ワークショップ 実施報告書

淑徳大学地域連携センター  
淑徳大学地域創生学部開設準備室

## 実施概要

### 1.開催目的

持続可能な地域コミュニティ実現のため、特に、若者目線での課題検討と課題解決に向け、若者の社会参加・地域参加のすそ野を広げるべく、町内自治会の会員や未加入者などで、立場や年齢、ライフスタイルの異なる市民から広く意見を聴取し、地域活動の継続、活性化を図ることを目的とする。

### 2.事業概要

持続可能な地域コミュニティの実現のため、ワークショップ参加者がそれぞれの視点から地域活動の課題や参加できる条件などの意見交換をし、地域課題の洗い出しや地域課題解決のための方策を具体化するワークショップを実施する。

### 3.参加者

市政だより等にてワークショップ参加希望者を募集し、決定した。

### 4.内容

#### (1)事前勉強会

地域活動を持続するためにはどうすればよいか、地域をより良くするためにはどうすればよいか、ワークショップを実施するにあたり、事前勉強会を実施し、参加者の皆さんと課題の認識・共有を図った。

日時：2022年10月8日（土）10時～12時

会場：淑徳大学千葉キャンパス

参加：28名（20代1名、30代4名、40代9名、50代11名、60代以上3名）

内容

- ・あいさつ（市民自治推進課長）
- ・町内自治会についての説明（市民自治推進課）
- ・ワークショップに向けた課題共有と整理（淑徳大学矢尾板俊平教授）
- ・論点整理・ディスカッション（ファシリテーター：淑徳大学矢尾板俊平教授）

#### (2)第1回町内自治会ワークショップ

事前勉強会を振り返り、課題テーマを6つに設定し、6つの班に分かれてそれぞれの課題について意見を出し合い、班ごと発表を行った。

日時：2022年11月12日（土）10時～12時30分

会場：淑徳大学千葉キャンパス

参加者：24名（20代1名、30代1名、40代6名、50代12名、60代以上3名、不明1名）

内容

- ・事前勉強会の振り返り及びグループの設定についての説明
- ・グループに分かれての討議（淑徳大学矢尾板俊平教授）
- ・グループでの討議内容の発表・共有（進行：淑徳大学矢尾板俊平教授）

【グループ】

- ①世代間の交流・地域内の交流などを進めていくための方法について（含イベントの在り方）
- ②他団体との連携の図り方や町内自治会の活動への動機づけ、報酬も含めたメリットの提供について
- ③地域の課題や町内会の活動をどのように周知していくか、SNSの活用方法や情報開示・広報の方法などについて
- ④学校教育との連携も含め、若年世代の参画の方法、こどもや若年世代、子育て世代が参加できるイベントの在り方について
- ⑤DXも含め町内自治会活動の運営方法の見直しについて
- ⑥地元愛を高め、みんなでまちづくりを行うための方法について（目標を設定、計画の策定、話し合いの工夫、財源の確保方法など）対策に向けて

(3)勉強会（インタビュー）

第2回ワークショップへ向け、地域で、町内自治会をはじめ様々な団体と連携・協力体制を築いている松ヶ丘中学校区町内自治会連絡協議会会長の石川様をゲストにお招きし、z o o m交流会を実施した。

日時：2022年12月10日（土）10時～12時30分

会場：Zoom開催

参加者：5名（40代3名、50代2名）

内容

松ヶ丘中学校区町内自治会連絡協議会会長石川和利氏へのインタビュー

(4)第2回町内自治会ワークショップ

第1回ワークショップで討議した各班の課題について、提案についてディスカッションし、発表した。

日時：2023年2月11日（土）10時～12時30分

会場：淑徳大学千葉キャンパス

参加者：14名（30代2名、40代6名、50代6名）

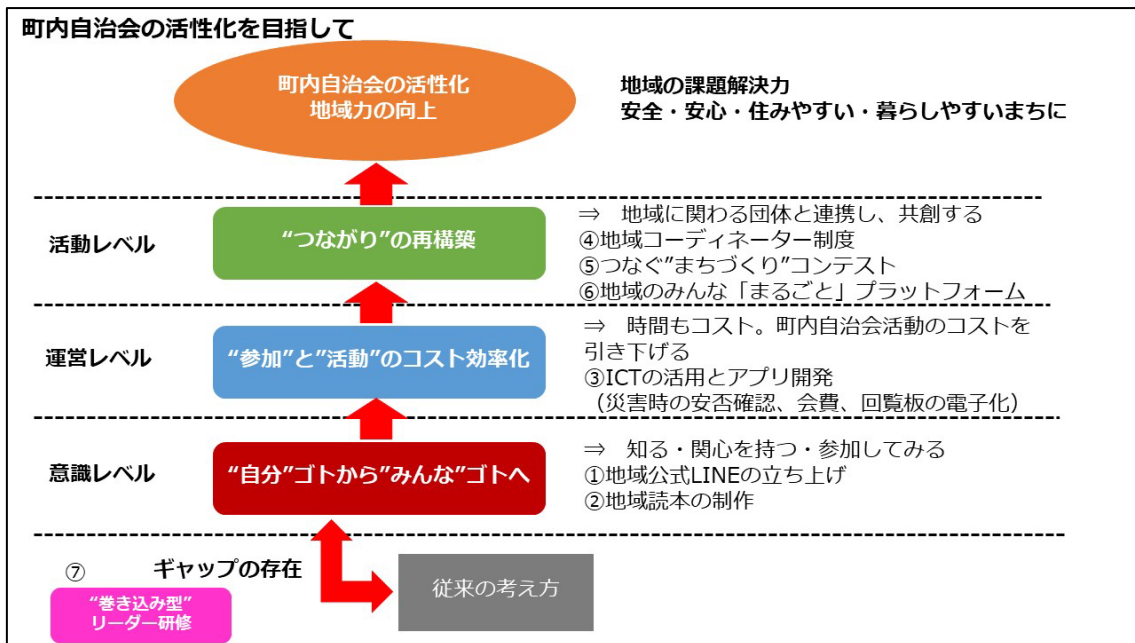
内容

- ・グループに分かれての討論
- ・グループごとの発表・意見交換（進行：市東真一淑徳大学地域創生学部開設準備室）
- ・提案のまとめ（淑徳大学矢尾板俊平教授）
- ・御礼の挨拶（市民自治推進課長）

## 2. ワークショップの提言内容

- (1)世代間の交流・地域内の交流などを進めていくための方法について（含イベントの在り方）
- (2)他団体との連携の回り方や町内自治会の活動への動機づけ、報酬も含めたメリットの提供について
- (3)地域の課題や町内会の活動をどのように周知していくか、SNS の活用方法や情報開示・広報の方法などについて
- (4)学校教育との連携も含め、若年世代の参画の方法、こどもや若年世代、子育て世代が参加できるイベントの在り方について
- (5)DX も含め町内自治会活動の運営方法の見直しについて
- (6)地元愛を高め、みんなでまちづくりを行うための方法について（目標を設定、計画の策定、話し合いの工夫、財源の確保方法など）対策に向けて

議論を通じて、下記のような提案が取りまとめられた。

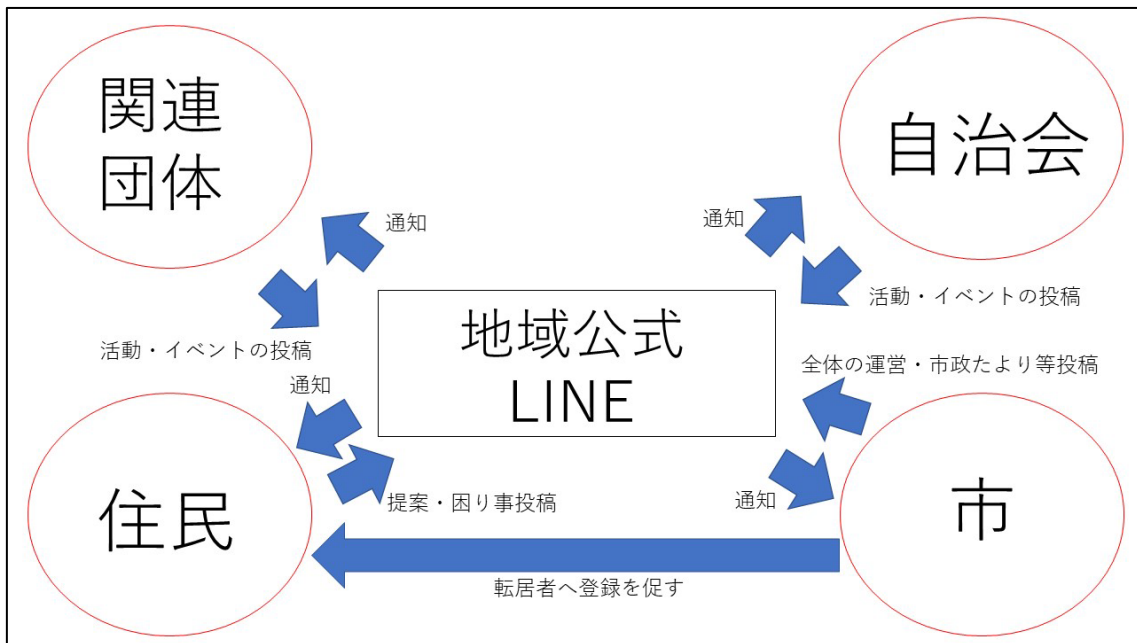


### ①PUSH 型(注)の【地域公式LINE】の立ち上げ、活用

これまで、住民側には地域の情報をなかなか知ることができない、他団体との交流ができない問題があった。さらに、自治会からは情報を連絡する手間、課題の見える化ができていない課題があった。そこで、地域公式LINEの立ち上げと活用を提案。

市：市政だよりなどの通知。転居者へ地域公式 LINE への登録を促します。  
 自治会：自治会の活動、イベントなどを通知。必要なアンケートなどを行います。  
 住民：地域改善提案、困りごとなどを投稿します。  
 関連団体：取り組みなどを通知します。（関連団体、他自治会など）

地域公式 LINE により、これまで手間であった連絡が簡単に行うことができると考えられる。

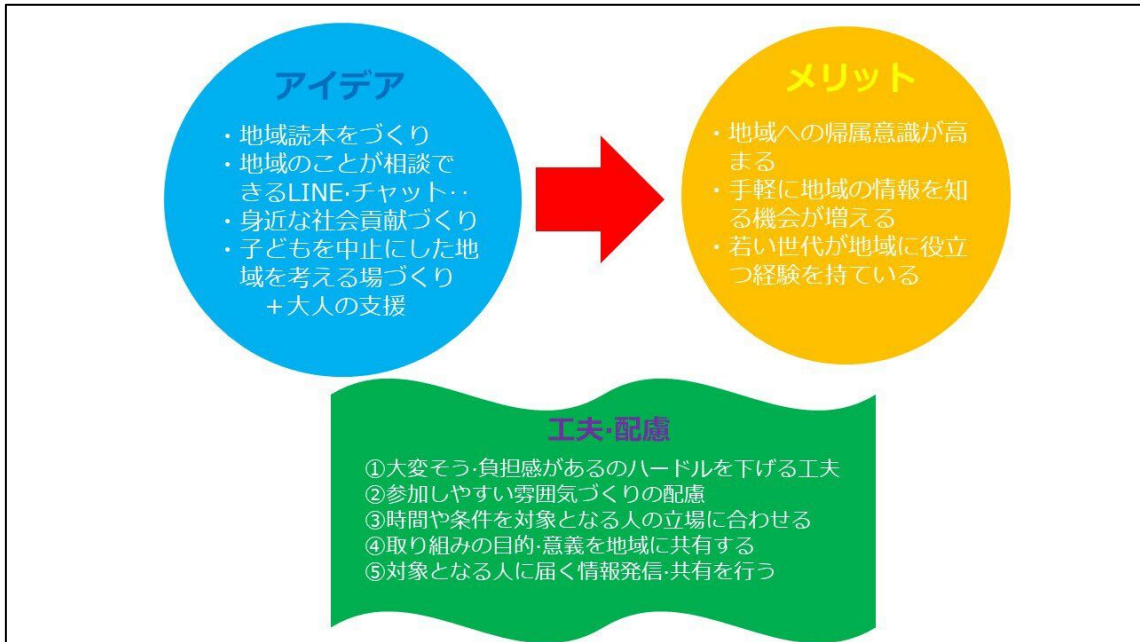


## ②地域読本の制作

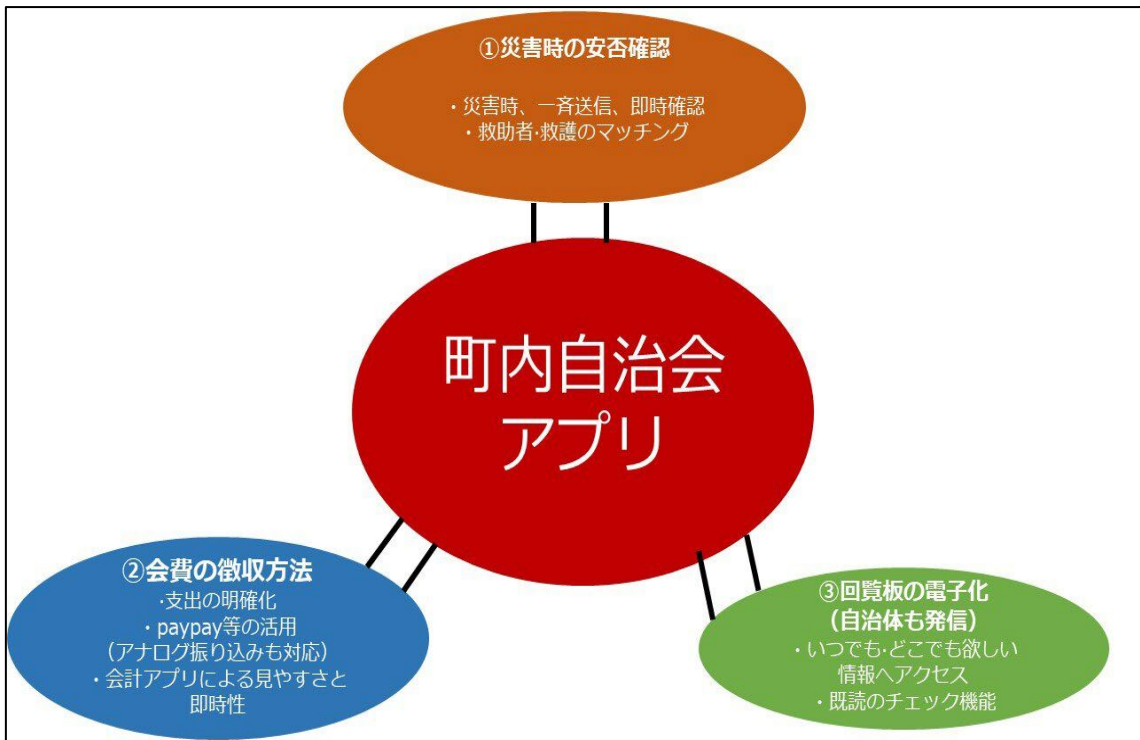
地域の活動に参加するためには、どうすればいいのかなど、実は、なかなか地域の活動参加する方法がわからなくて、地域に関わっていない人も多いと考えられる。そこで、地域の活動に参加するための方法、どのような地域の活動があるのか、町内自治会の活動にはどのようなものがあり、自分たちの生活にどのように関わっているのか、などの情報がまとまっている「地域参加読本」を制作することを提案。

それぞれの地域の特徴やみんなが知っている良い情報、地域の資源のことなども掲載して、自分たちの住んでいる地域について知ることができる。

地域読本を大人だけで作るのではなく、こどもたち（小学生や中学生、高校生）や若者（大学生など）と一緒に作っていくことで、地域の魅力を再発見する機会にもなると考えられる。



### ③町内自治会統合アプリの活用



#### ・災害時の安否確認

これまでの安否確認のやり方だと見守る側の負担、手間がかかってしまう。そのため、安否の発信ができない、見逃されていた。そこで災害時、アプリなどで発信できる仕組み

をつくることを提案。そうすると、救助などに協力できる人が自分から発信できるようになると考えられる。

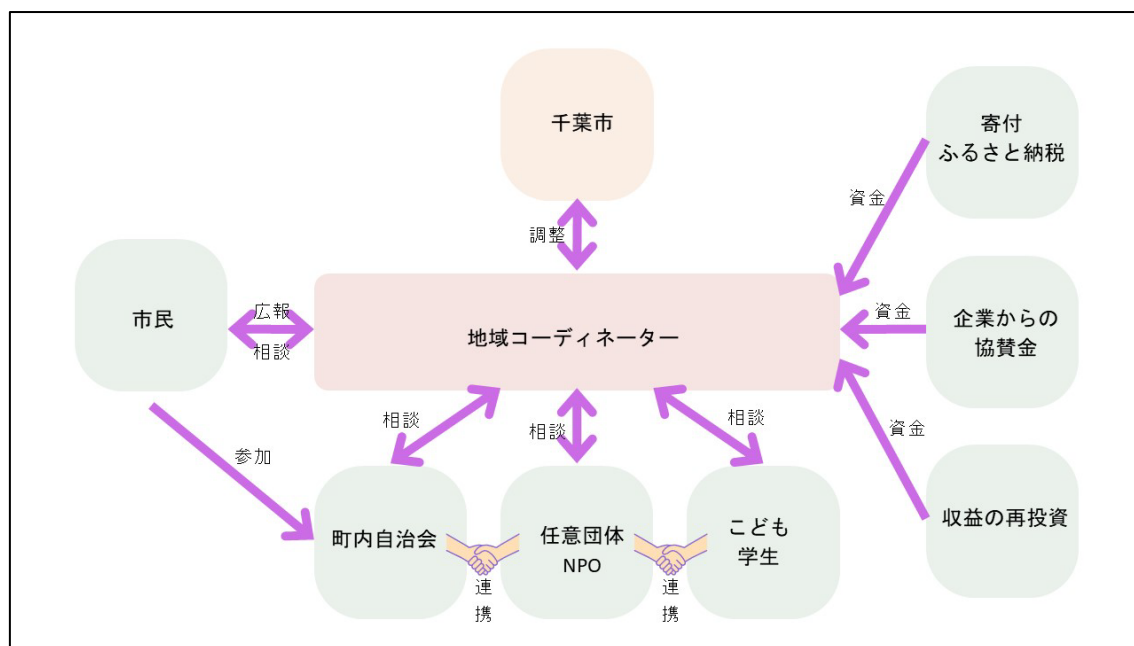
#### ・会費の徴収

今までの会費の徴収方法では、徴収する側と支払う側で手間と時間がかかってしまう。さらに、現金を管理している精神的ストレスも発生する。用途が不明瞭なことによる不信感もあったように思われる。そこで、電子マネーなどでも支払いができる仕組みを提案。

#### ・回覧板の電子化

回覧板だと即時性の欠如・紛失の恐れがある。さらに、情報を発信している自治体も印刷費や郵送費などの負担がかかる。そうならないために、回覧板も電子化しいつでも見られるものを用意することを提案。

### ④地域コーディネーター制度



地域コーディネーターは、現代の「地域のお世話役」。地域に関わる様々な団体や関係者と地域をつなげる役割を果たし、町内自治会や地域の NPO・地域団体が「こんなことをやってみたいのだけど」と気軽に相談できる存在が地域には必要。

地域コーディネーター制度を導入することで、行政の許可やリソースを利用しやすくなったり、企業からの協賛を得やすく、地域連携を促進することができると考えられる。また、地域コーディネーターが地域活動の応援やサポートをしたり、他地域の事例も紹介することで、地域をより楽しくする企画をブラッシュアップできたり、地域の人材や資源の



発見や他地域との連携を進めていきやすくなると考えられる。

小学校区単位で 2～3 人程度、志望動機を提出し、研修を受けた方を、市が委嘱。公民館などを拠点に活動し、隣接地域のコーディネーターとも机を並べ取り組みを共有したりする。また、地域活動の資金調達を市民からの寄付、ふるさと納税、企業からの協賛金など資金面でも地域を応援。将来的には地域財団型で自走していく仕組みも考えられる。

#### ⑤つなぐ”まちづくり”コンテスト

市民主体でワクワクする活動するプロジェクトを募集し、選定されたプロジェクトを市が後援する「つなぐ”まちづくり”コンテスト」を提案。ひとつの自治会に限らず、多様な人びとやグループ、多世代との積極的な連携する取り組みを応援。毎年アップデートしながら継続できるように、ボランティアではなく予算と収益をあげる自走型プロジェクトのスタートアップを支援していく仕組みとし、小学校区単位での提案について、全市で毎年度 3～5 のプロジェクトを選定し、支援金が助成されるというイメージを想定している。

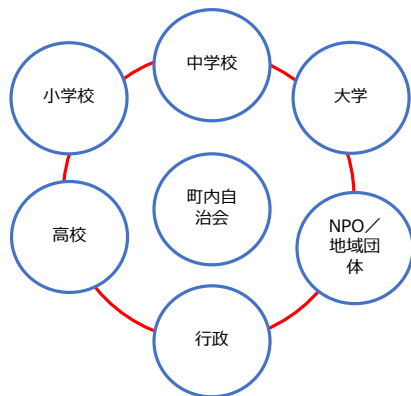


#### ⑥子どもと大人 地域みんな「まるごと」プラットフォーム

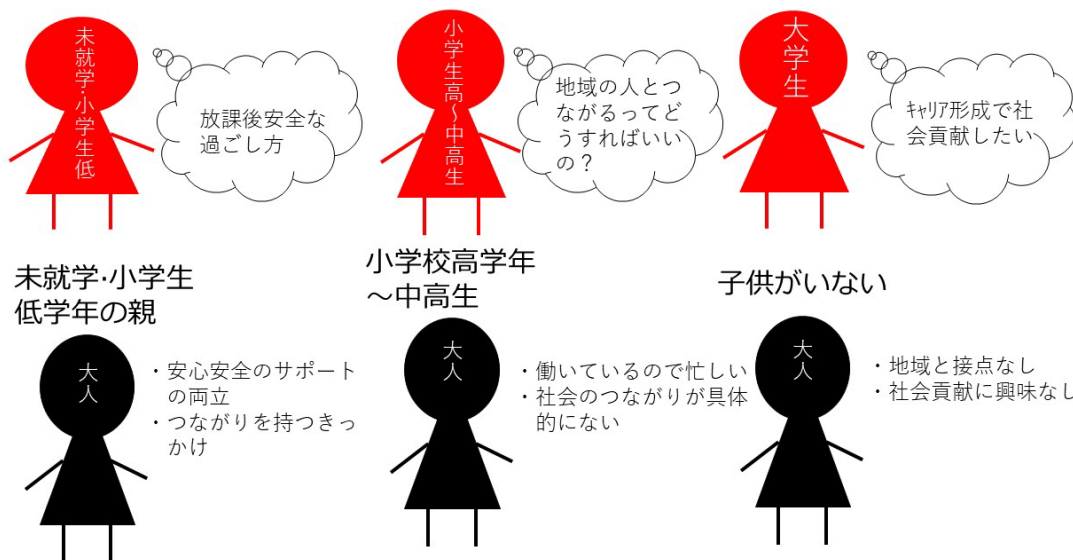
子どもたち、大人たち、地域みんなをつなぐ多世代交流、子どもが地域を考えるプラットフォームを提案。地域の小学校や中学校、地域の団体等による円卓会議を通じて、子どもたちで地域に貢献できるきっかけづくりを進めていく仕組みづくりが必要だと考える。こうした取り組みを通じて、子どもたちの地域への帰属意識等が醸成されていくことを目指していく。

子どもたちがそれぞれの発達段階や自分のキャリアの中で、社会貢献をどうすればいいかなどの問題を考えていくとともに、大人たちも、地域で子どもたちの安全なサポート体制を作ることで、地域でのつながりを作ることを目指す。

千葉県では、「千葉県子ども・若者市役所」という子どもや若者が主体的にまちづくりに関わる仕組みを作っていることから、こうした取り組みと地域が連携することもポイントになると考えられる。



〈子ども〉



⑦”巻き込み型”リーダー研修

町内自治会の活動に参加する若い世代の皆さんを増やしていくためには、町内自治会の役員の皆さん、地域のリーダーの皆さんが若い世代の皆さんの特性を知り、これまでのやり方から、もっと若い世代の皆さんが参加しやすい環境を作っていくということも必要だと考えられる。

そこで、若い世代の皆さんがどんな特性を持っているのか、どんな価値観を持っているのか、また、令和型の町内自治会活動に必要なことは何か、といった「巻き込み型リーダー研修」で、みんなで、継続的に考えていくことが大切だと言える。

#### ポイント① 「認める力」を発揮する

多様な価値観がある中で、目の前にいる若い世代の皆さんの考えていること、やり方は、もしかすると、これまでのやり方とは違うかもしれない。このときに、「否定する」のではなく、その考え方ややり方を一度、肯定した上で、一緒に考えていくというコミュニケーションの取り方が大切。

#### ポイント② エンパワーメントする

エンパワーメントとは、個人や集団が元々持っている潜在力を引き出し、発揮させていくことを意味する。今までのやり方を踏襲するだけでは、若い世代の皆さんが持っている「力」が、実は発揮しにくくなっていたりするかもしれない。

#### ポイント③ ワークエンゲージメントを高める

町内自治会の活動においても、活動に参加する皆さんが「楽しく」、主体的に、積極的に活動に参加していくことが大切。このような状態は「ワークエンゲージメント」が高い状態であると言える。「楽しくなく」、「辛い」状況で、たくさんの活動をするには、やがて「バーンアウト」（燃え尽きてしまった状態）してしまう。

#### 最後に

ワークショップの議論を経て作成された「自分ゴトからみんなゴトへ」、「“参加”と“活動”のコスト効率化」、「“つながり”の再構築」という 3 つの段階を経て、「町内自治会の活性化」や「地域力の向上」という目標を目指す、7つのアイデアを紹介した。

アイデアには、地域ができること、地域と行政ができることなど、さまざまなアイデアがあるが、それぞれのアイデアを完全にではなくても、その要素は今からでも、少しずつ、町内自治会活動に取り入れることができる内容だと考えられる。

町内自治会は、「ソーシャルキャピタル（社会的関係資本：信頼、互酬性、ネットワーク）」の基盤である。町内自治会の機能が弱まれば、地域にはたくさんの困りごとが生まれ、地域力も弱まっていく。一方、町内自治会は、「地縁組織」であり、その地域に住んでいる方々にとっては、“no choice”（選べない）な存在である。だからこそ、多くの方が参加しやすく、楽しく、やりがいを感じる活動にしていくことが大切。そして、地域に関わる様々な力を集めて課題解決していく、「コレクティブインパクト」（集約的な課題解決力）の原動力にもなると考えられる。

最後に、こうしたアイデアをもっともっと進めていくためには、例えば、町内自治会と NPO や市民活動団体、学校、大学と連携する活動への支援、地域活動のポイント制度なども行政には検討していただきたい。

# 町内自治会ワークショップ アンケート

～今後の参考にさせて頂くため、アンケートの回答にご協力をお願いします～

※以下の設問について、当てはまるものにチェックをお願いします

1 あなたの性別をおしえてください

- 男      女      答えたくない

2 あなたの年齢をおしえてください

- 20代      30代      40代      50代      60代以上

3 今回のワークショップにどのようなことを期待していましたか（いくつでも）

- 自分たちの地域をよくするための取組みを見つけること  
地域へ関わるひとつのキッカケとなること  
様々な考え方や知識・経験を持つ人達と知り合えること  
町内自治会活動について自分の意見が反映されること。  
その他（具体的に

)

4 ワークショップに参加された感想をおしえてください

- 大いに満足      満足      不満      大いに不満  
その他（具体的に

)

5 大いに満足、満足と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか（いくつでも）

- 有意義な話し合いができた  
新しい気づきや発見があった  
他の人の意見を聞くことができた  
様々な知識や経験を持つ人達と知り合うことができた  
自分たちの地域をより良くするための取組み（ヒント）を見つけることができた  
市政について理解することができた  
その他（具体的に

)

6 大いに不満、不満と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか（いくつでも）

- 満足な話し合いが出来なかった  
考え方や知識など、特に新しい発見がなかった  
当初、考えていた内容と違った  
グループワーク等に時間がかかった  
市政について理解することができなかった  
その他（具体的に

)

7 今回のワークショップの回数（事前勉強会1回、ワークショップ2回）について  
どのように感じましたか？

- 多い      ちょうどよい      少ない

8 町内自治会に関するワークショップを実施することについて、どう思いますか

- (1) 実施した方がよい      実施しなくてよい ((4)へお進みください)

(2) 実施した方がよいと答えた方にお聞きします。その理由は何ですか (いくつでも)

- 地域の活性化につながるため
- 色々な意見が反映されるため
- 若い世代の意見を活かしていくため
- その他 (具体的に )

(3) 実施した方がよいと答えた方にお聞きします。ワークショップを実施するにあたり  
今後、どのようなテーマを検討していくべきと考えますか。(いくつでも)

- 多世代間の交流に向けた取組み
- 町内自治会活動の動機付けやメリットに関する取組み
- 町内自治会の広報活動 (SNSなど) に関する取組み
- デジタル化など、町内自治会の組織運営に関する取組み
- 多様な主体との連携
- 外国人住民との交流
- 担い手不足
- 今回のアイデアの実現へ向けた実証
- その他 (具体的に )

(4) 実施しなくてよいと答えた方にお聞きします。その理由は何ですか

9 今後、町内自治会に関するワークショップを実施する場合において、あなたの考えを教えてください

- 参加したい
- どちらともいえない
- 参加したくない
- その他 (具体的に )

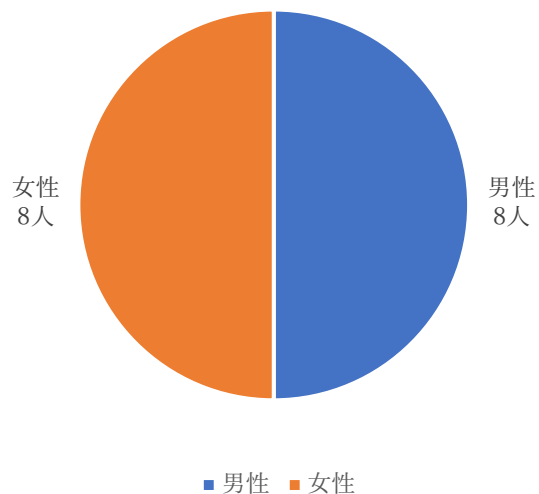
10 今後の参考とするため、今回のワークショップの内容や進め方について、改善点なども含め、ご意見をお願いします

アンケートにご協力いただきありがとうございました

ワークショップ参加者へ、今後のワークショップの開催・運営等の参考とするためアンケートを実施した結果（総回答数(n)=16人※）は下記のとおりです。

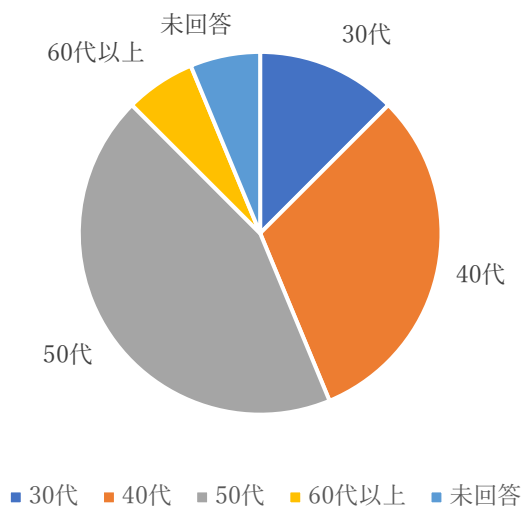
なお、記載の内容、集計、意見は全てアンケートに基づくものです。

### 問1 性別



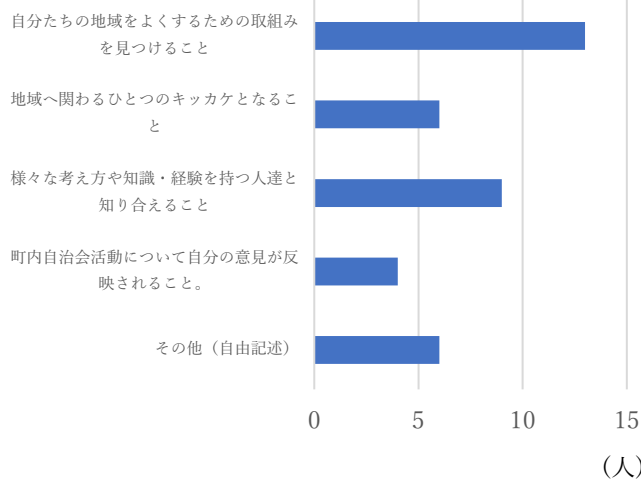
(n)=16

### 問2 年齢



選択肢	回答数	割合
30代	2	13%
40代	5	31%
50代	7	44%
60代以上	1	6%
未回答	1	6%
合計	16	

問3 今回のワークショップにどのようなことを期待していましたか（いくつでも）

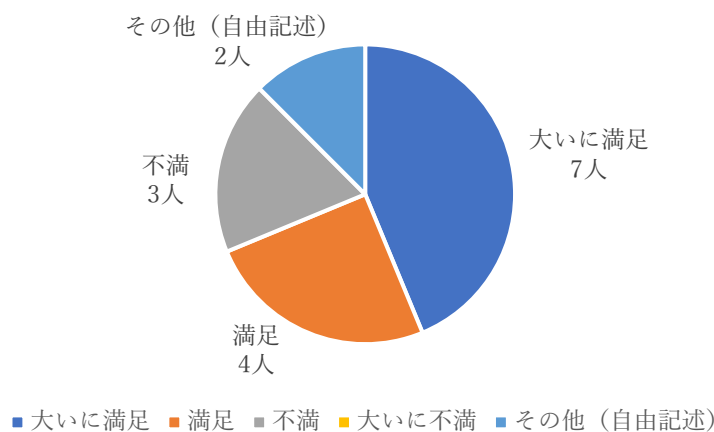


選択肢	回答数	割合
自分たちの地域をよくするための取組みを見つけること	13	34%
地域へ関わるひとつのキッカケとなること	6	16%
様々な考え方や知識・経験を持つ人達と知り合えること	9	24%
町内自治会活動について自分の意見が反映されること。	4	11%
その他（自由記述）	6	16%
合計	38	

【その他（自由記述）の内容】

- ・大学のゼミ生等、若い人の意見も知りたかった。
- ・千葉市を、真に市民主体のまちづくりが進み、日本一住みやすいまちになるキッカケができる。
- ・他の自治会の事例を共有できること。
- ・自治会運営の負担軽減。
- ・強制加入をやめてほしい。入ることへのメリット・デメリットを説明してほしい。
- ・多職種との意見交換も出来ると思い参加しました。

問4 ワークショップに参加された感想をおしえてください

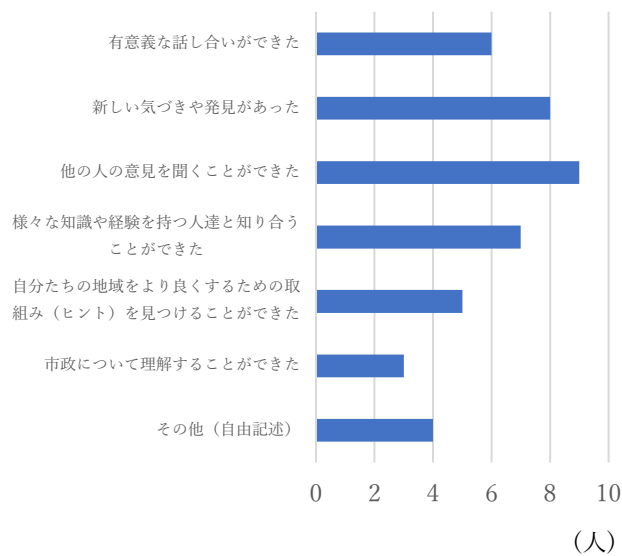


(n) = 16

【その他（自由記述）の内容】

- ・課外活動でのワークショップがうまく運営できなかった。ファシリテーターを自ら進んで対応する等、ワークショップを把握すべきであったと自省しています。
- ・グループ解散。
- ・不満ではあるが、開催したこと自体には大いに意味があると感じました。

問5 大いに満足、満足と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか（いくつでも）

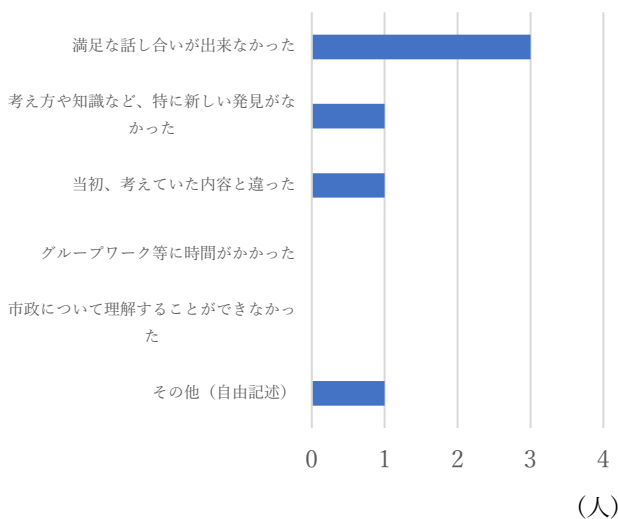


選択肢	回答数	割合
有意義な話し合いができた	6	14%
新しい気づきや発見があった	8	19%
他の人の意見を聞くことができた	9	21%
様々な知識や経験を持つ人達と知り合うことができた	7	17%
自分たちの地域をより良くするための取組み（ヒント）を見つけることができた	5	12%
市政について理解することができた	3	7%
その他（自由記述）	4	10%
合計	42	

【その他（自由記述）の内容】

- ・他市の整理された文書を探してくれる等、今後の取組みの参考となった。
- ・悩んでいるのは自分たちだけでなく、皆同じような困りごとがあることを知れました。
- ・公私にわたり、今後長らく相互協力できる方に出会えてとてもうれしかったです。
- ・同じ事に困難をそれぞれ抱えていらっしゃる事、そして、何とか解決しようとした方々と意見交換できたこと。

問6 大いに不満、不満と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか（いくつでも）



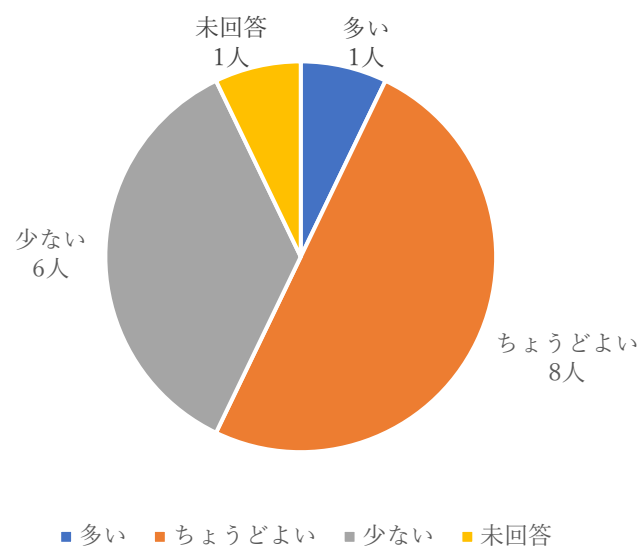
選択肢	回答数	割合
満足な話し合いが出来なかった	3	50%
考え方や知識など、特に新しい発見がなかった	1	17%
当初、考えていた内容と違った	1	17%
グループワーク等に時間がかかった	0	0%
市政について理解することができなかった	0	0%
その他（自由記述）	1	17%
合計	6	



【その他（自由記述）の内容】

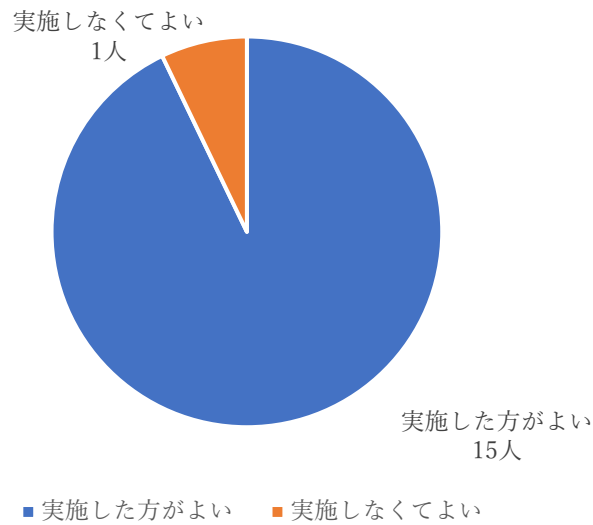
- ・ 事前資料配布がなく当日突然内容の濃いアンケートへの回答を求められたり、グループ分けが当日発表されたりと、要は事前準備を入念にできなかったこと。最後までどういう流れで進んでいくか見えなかった。
- ・ 現役世代～と銘打ってたにもかかわらず明らかにそうではない世代の参加を認めたこと。
- ・ 参加者の多くがワークショップを理解していなかったと思われること。ただのセミナーだと思っていたフシがあり、結果として十分な討論ができなかった。
- ・ 着地点が見えなかった。つまり何のために開催されたワークショップなのか最後までよく分からなかった。

問7 今回のワークショップの回数（事前勉強会1回、ワークショップ2回）についてどのように感じましたか？



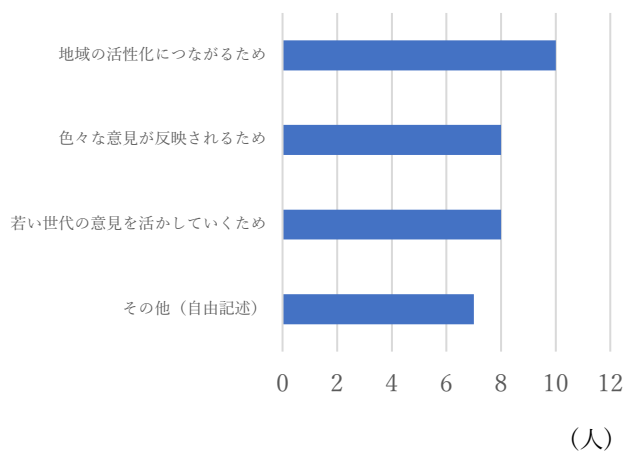
(n)=16

問8 (1) 町内自治会に関するワークショップを実施することについて、どう思いますか



(n) = 16

問8 (2) 実施した方がよいと答えた方にお聞きします。その理由は何ですか (いくつでも)

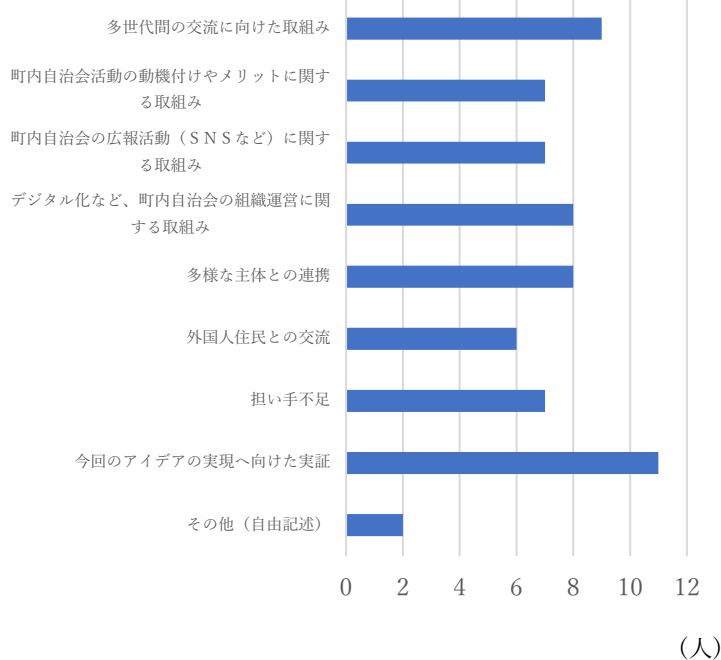


選択肢	回答数	割合
地域の活性化につながるため	10	30%
色々な意見が反映されるため	8	24%
若い世代の意見を活かしていくため	8	24%
その他 (自由記述)	7	21%
合計	33	

【その他 (自由記述) の内容】

- ・現実的な対話や学びの機会があると、ネガティブな憶測が解消しやすいと思いました。
- ・具体的にアクションにつなげていくためのエネルギーを高めるため。
- ・意見交換の場となり、情報共有、好事例を知る。
- ・長年デジタル化を受け入れず硬直化している自治会運営。
- ・多くの方が当事者意識を持つ機会となり、自治会活動の活性化につながるのでは。
- ・行政側の考え、方向性を知るキッカケになる。
- ・自分が触れたことのない知識、スキームを知る事
- ・新しい試みは、まずはやってみた方がいいから。また少しでも関心のある人を増やせる可能性も出てくるため。

問8（3） 実施した方がよいと答えた方にお聞きします。ワークショップを実施するにあたり今後、どのようなテーマを検討していくべきと考えますか。（いくつでも）



選択肢	回答数	割合
多世代間の交流に向けた取組み	9	14%
町内自治会活動の動機付けやメリットに関する取組み	7	11%
町内自治会の広報活動（SNSなど）に関する取組み	7	11%
デジタル化など、町内自治会の組織運営に関する取組み	8	12%
多様な主体との連携	8	12%
外国人住民との交流	6	9%
担い手不足	7	11%
今回のアイデアの実現へ向けた実証	11	17%
その他（自由記述）	2	3%
合計	65	

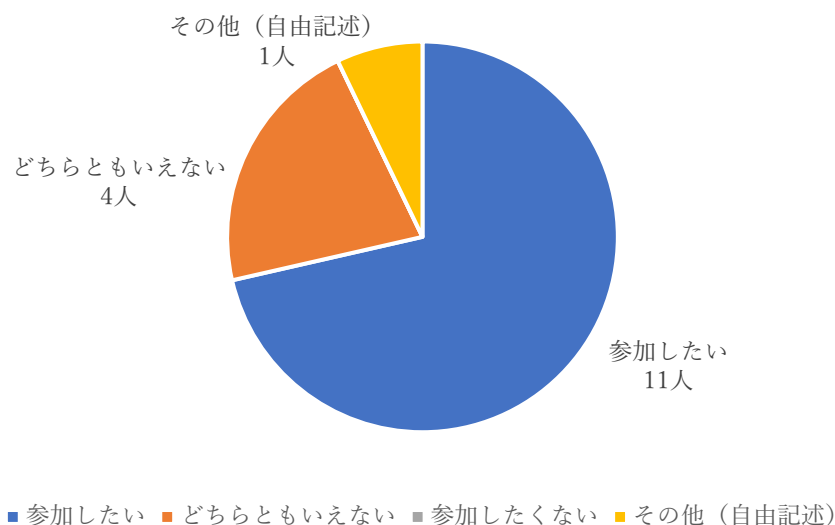
【その他（自由記述）の内容】

- ・町内自治会における高齢化社会の問題。
- ・没交流になりがちな集合住宅やいわゆる新住民との交流や働きかけ。
- ・アイデアは先行事例がいくらでもあるため、後はそれをどう具現化するか、要は政治の範疇に属する部分を詰めた方がいい気がしました。

問8（4） 実施しなくてよいと答えた方にお聞きします。その理由は何ですか

- ・参加者に高齢の方がいない。SNSでの運営について若者目線の話ばかりだった。

問9 今後、町内自治会に関するワークショップを実施する場合において、あなたの考えを教えてください



【その他 (自由記述) の内容】

- ・テーマによっては参加したい。

問10 今後の参考とするため、今回のワークショップの内容や進め方について、改善点なども含め、ご意見ををお願いします

- ・「ミッション→ビジョン→コラボレーション→プロトタイプ→共感・物語→行動変容→アイデンティティ」のサイクルを回すことは地域コミュニティの活性化に向けて必要なサイクルと感じました。イシューを明確にして小さな成功体験を住民参加、特に若い世代を巻き込んでサイクルを回したいと思います。
- ・3回参加し、最後まで残った方は意識の高い方かと思います。今後も継続してこのメンバーで続けていくと、何か生み出せるかもしれません。
- ・今回のワークショップを知ったきっかけは、千葉市公式LINEからでした。もう少し大々的に告知があるといいのかなと思いました。
- ・直接会って議論できる場や回数を増やしてほしい。ワークショップに参加しようと思うぐらい意識の高い方が多いはずなので、もっとお話しがしたかった。
- ・テーマが多いのは承知できるので、良い面もあるが、実際に自治会に落とし込める具体的な問題解決に具体的に進められるようにしたい。例えば、自治会シミュレーションのようなこと？ぜひ、続きのワークショップをしてください、参加したいです。
- ・地元自治会に参加していないワークショップ参加者について、どうしたら地元自治会に参加できるのか？をもう少し深掘りする必要もあと思いました。
- ・今回のワークショップは、①地元町内会に大きな課題があり、その解決に参考になることがあれば②仕事柄、多地域の現状を把握でき、また参考になることがあれば。の理由から参加を希望しました。

同じ班になった方々は、地域社会の問題を真剣に考えていて、とても意識が高い方で、たいへん勉強になりました。一方、町内自治会に関心のない人は、このような勉強会にも興味がないわけで、そういった住民に地域のつながりの大切さを知ってほしく、どのようにしたら地域へ目を向けてもらえるのか、という自分の中の問題は残ったままです。

今度、参加させていただく機会があれば、駐車場が利用できる施設で実施していただけたら通いやすいので助かります。

- ・もっと、素朴な意見交換で良かったのでは。
- ・提出物（負担）が多すぎると、グループ解散になったり、途中で抜けたりと言う結果になってしまうのでは→「すみません、その日急用が入ってしまいまして」と円満に抜ける形。
- ・うまく行っている自治会関係者をゲストに呼んでお話してもらおうなど、具体的な例を紹介しても良いかも知れません。
- ・皆さんそれなりにモチベーションがある中で参加されていると思いますが、用意された日程以外で班ごとに話し合いを進めるのが難しく感じました。
- ・それぞれの本業がある中で時間を確保するのが、私の場合は難しかったです。  
用意された日程の中だけで、ワークショップを行うものと認識していました。  
日程以外でのミーティングや話し合いはありません、求めません、というアナウンスが、募集の段階であると参加の敷居が下がるように感じました。
- ・普段聞けない、大学教員の話が聞けた点はとても貴重な機会でした。テーマにそった専門家の講義&ワークショップ、という組み合わせも魅力的だと思います。
- ・千葉市「防災ライセンス講座」の様なレクチャー形式の「自治会運営講座」があると良いと思ったりしました。（「市政出前講座」にも似たような物がありますが自治会運営に特化した講座として）  
また千葉市オフィシャルな物として自治会運営ガイドブックの様な物を各自治会へ配布頂けると良いと思いました。（各事例や各団体などへの繋がり先など）
- ・各班ごとに事務方からファシリテーター役を配置した方が良いと感じた。
- ・もっとワークショップというものを理解した人間だけで（少数精鋭で）行うのも1つの手だと思った（1グループが複数テーマ担当してもよい）。実際今回のようなテーマの大きさ深さだと、2回のワークショップの時間だけで議論が煮詰まるわけもなく、時間外での能動的な動きが必要。それを厭わないくらい能動的な人だけで実施すべきだと感じた。
- ・初回に、どういう目的でワークショップを行うのは明示した方がよい。
- ・とにかく事前に資料配布はしてほしいし、次回何をやるかは明示してほしい。予習しようがなかった。全体的に運営がぐだぐだだった。
- ・せっかくやる気のある人たちが集まっているのだから、ネットワーク化に向けた後押しがファシリテーター役である当局には求められる。とにかく「個人情報保護」に過剰に反応しすぎ（同意を取れば個人情報保護法的には問題がないため）。

資料

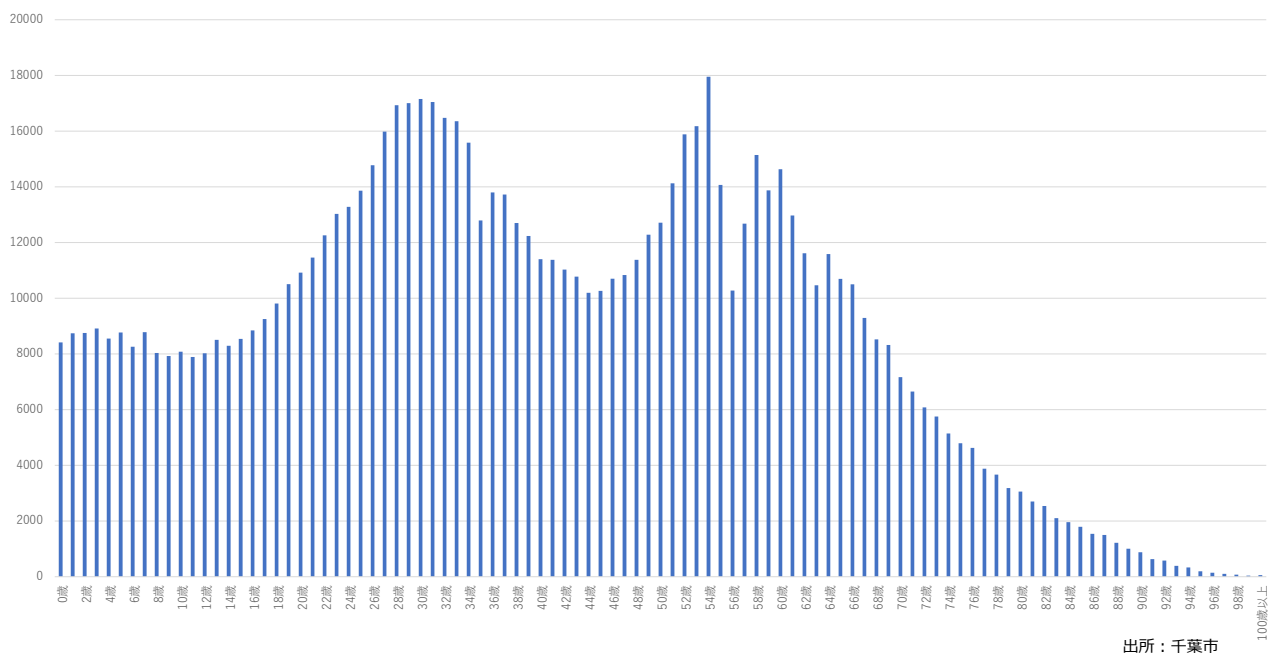
# 町内自治会ワークショップ

淑徳大学学長特別補佐  
コミュニティ政策学部 教授  
矢尾板 俊平



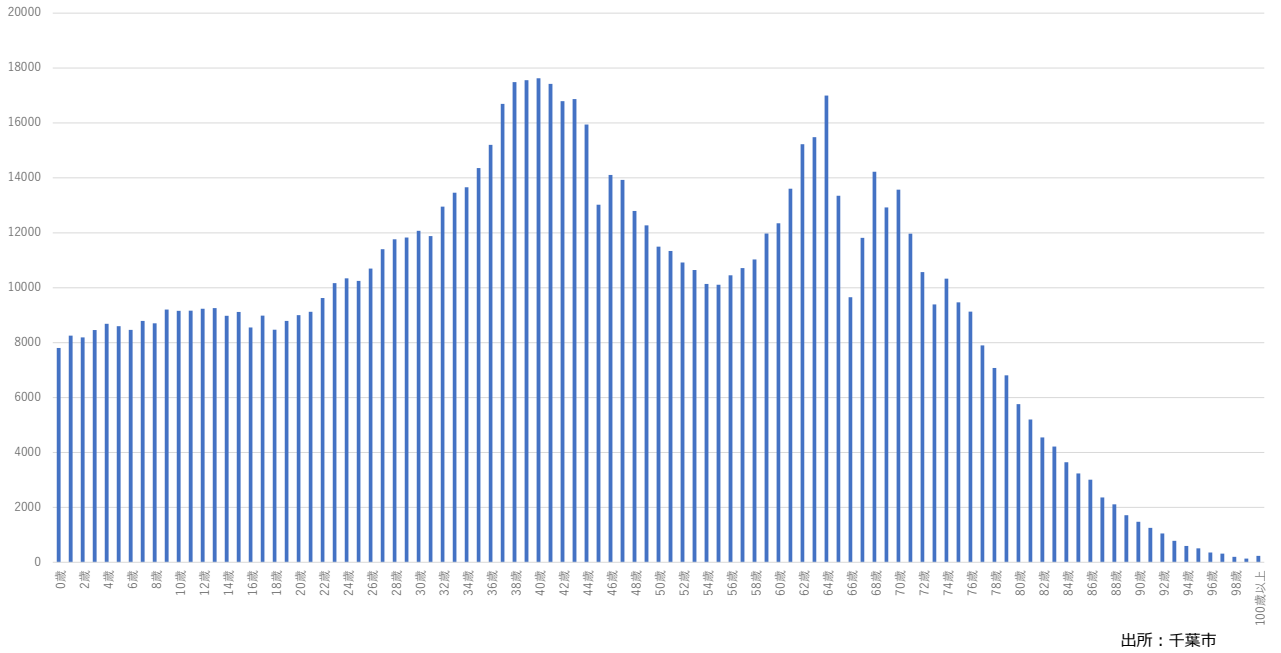
1

千葉市の年齢別人口（2002年）



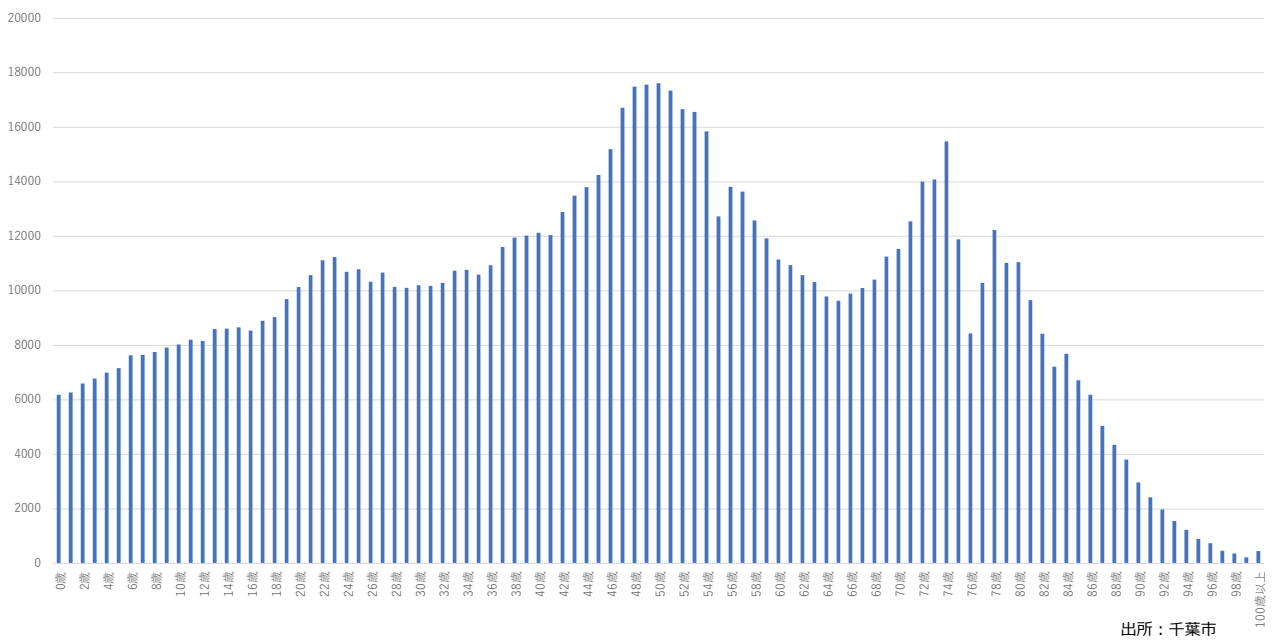
2

## 千葉市の年齢別人口（2012年）



3

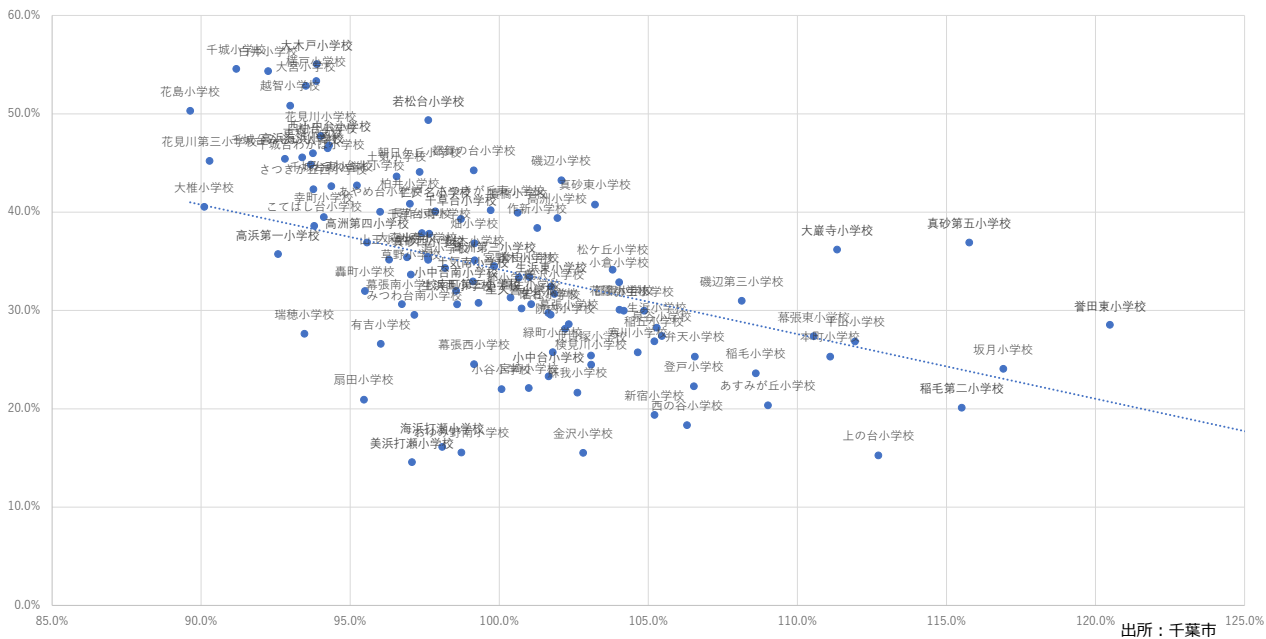
## 千葉市の年齢別人口（2022年）



4

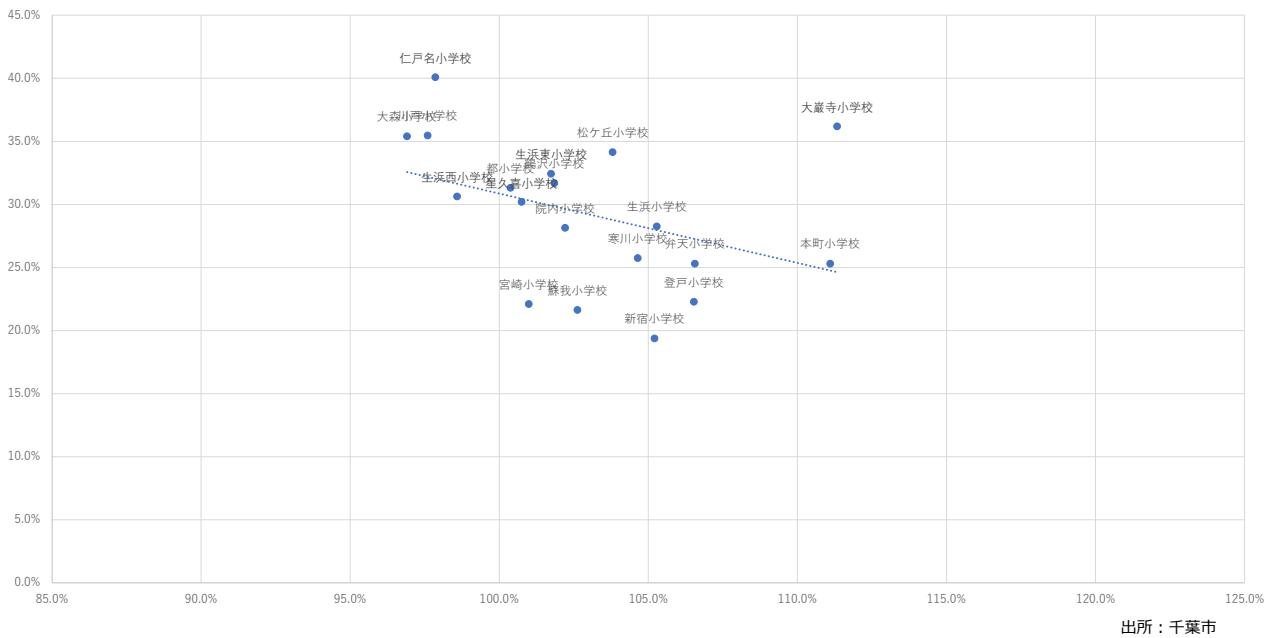


千葉市の小学校区別人口変化（平成29年と令和4年の比較）（横軸）と60歳以上の人口割合（令和4年）（縦軸）（全市）



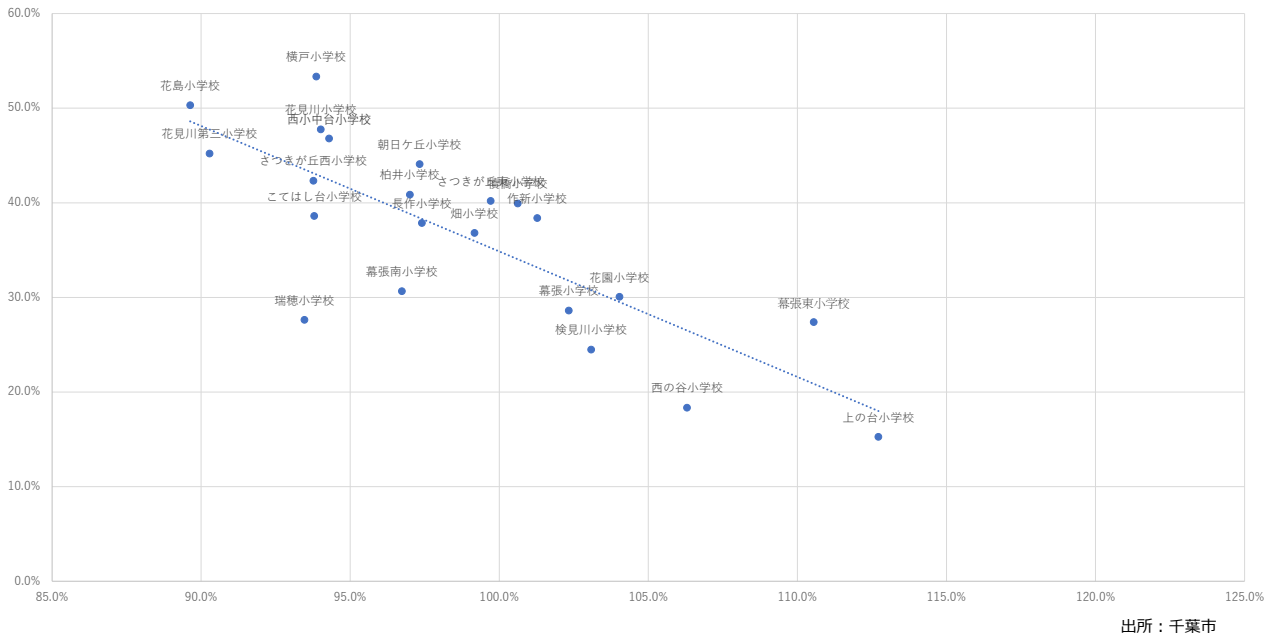
5

千葉市の小学校区別人口変化（平成29年と令和4年の比較）（横軸）と60歳以上の人口割合（令和4年）（中央区）



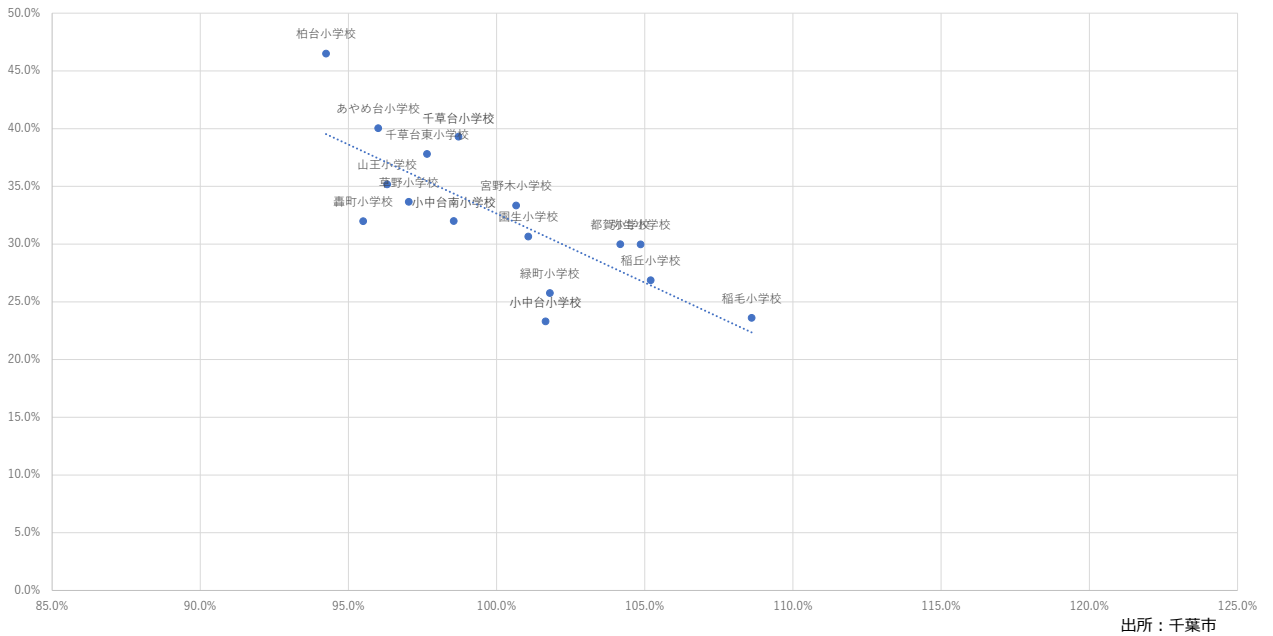
6

千葉市の小学校区別人口変化（平成29年と令和4年の比較）（横軸）と60歳以上の人口割合（令和4年）（縦軸）（花見川区）



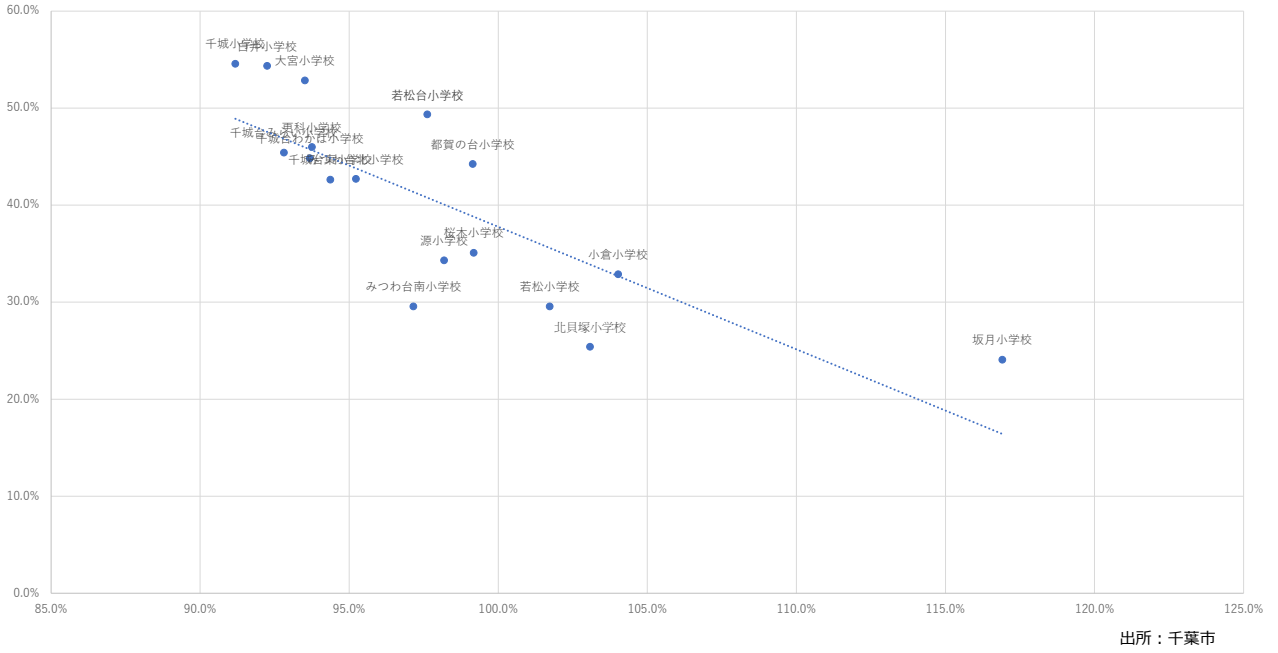
7

千葉市の小学校区別人口変化（平成29年と令和4年の比較）（横軸）と60歳以上の人口割合（令和4年）（稲毛区）



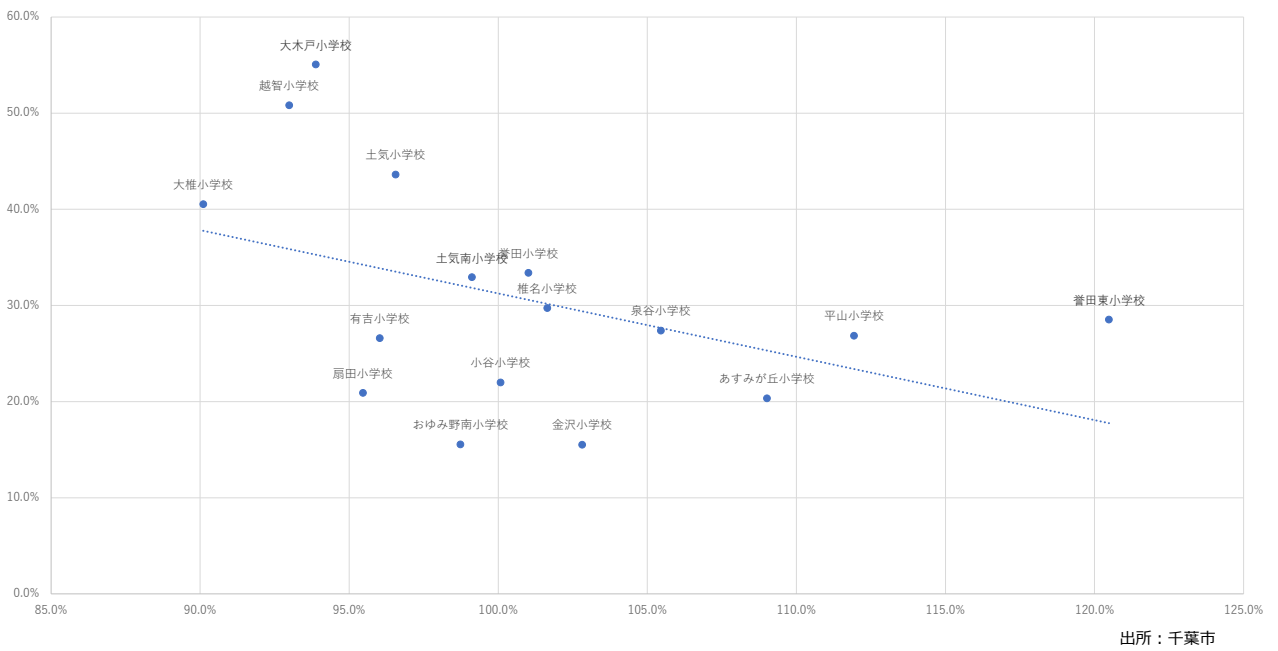
8

千葉市の小学校区別人口変化（平成29年と令和4年の比較）（横軸）と60歳以上の人口割合（令和4年）（縦軸）（若葉区）



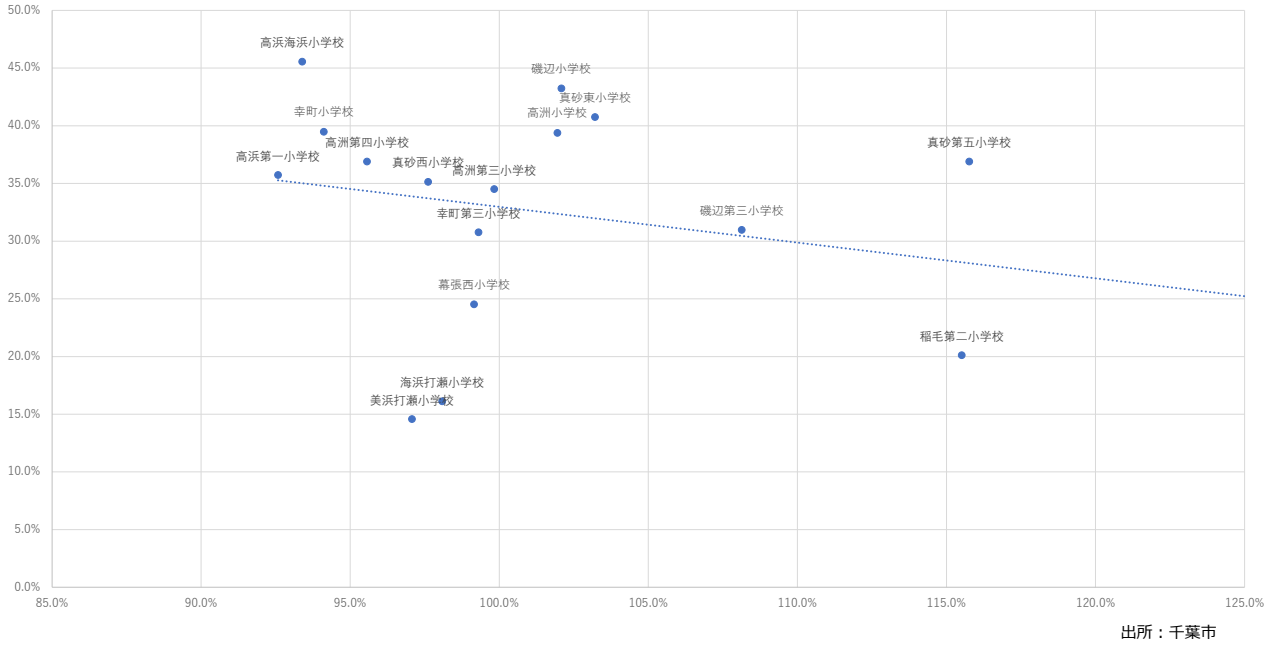
9

千葉市の小学校区別人口変化（平成29年と令和4年の比較）（横軸）と60歳以上の人口割合（令和4年）（緑区）



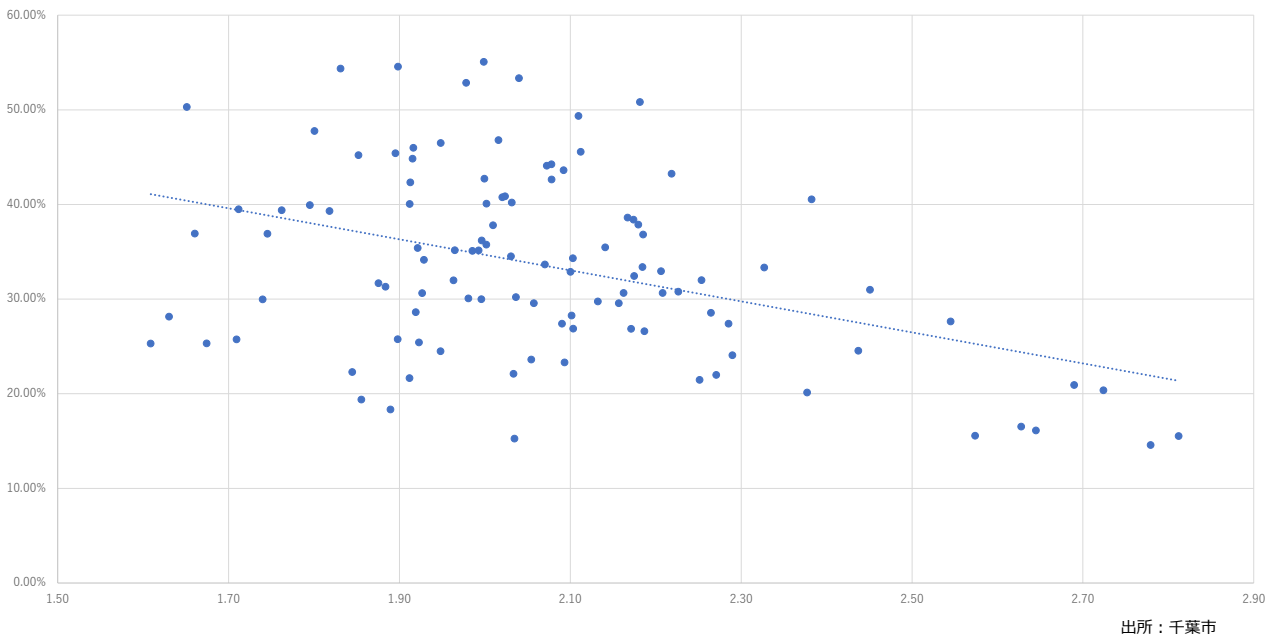
10

千葉市の小学校区別人口変化（平成29年と令和4年の比較）（横軸）と60歳以上の人口割合（令和4年）（縦軸）（花見川区）



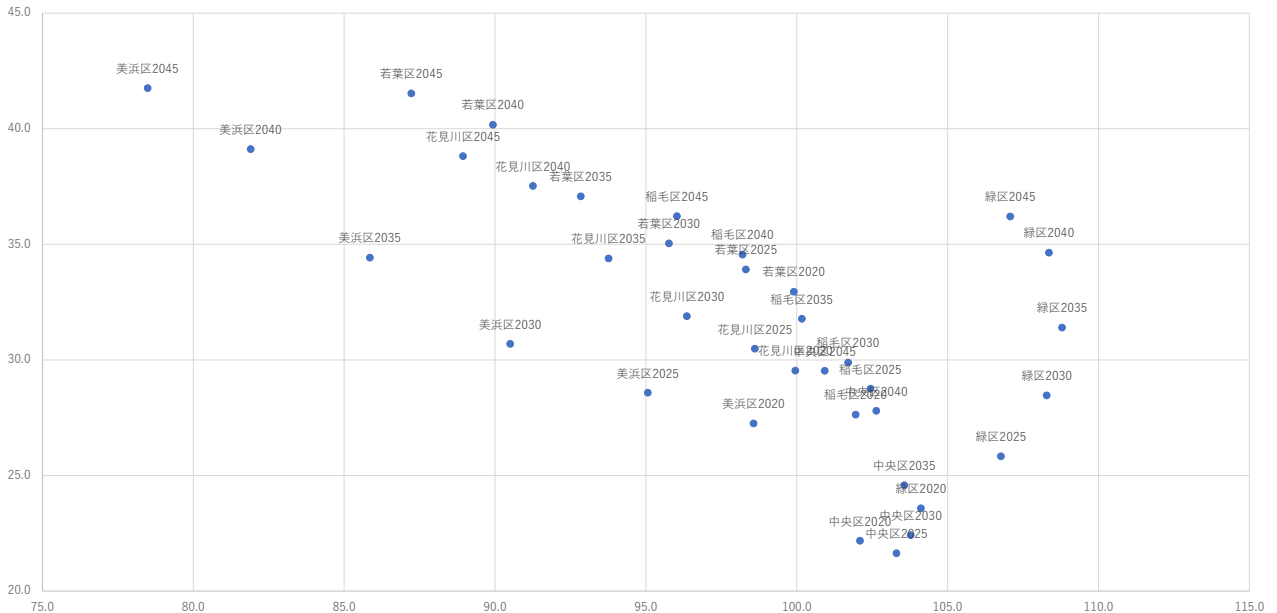
11

千葉市の小学校区別世帯当たり人口（横軸）と60歳以上の人口割合（縦軸）（全市）（令和4年）



12

### 将来人口の推計（横軸：人口（2015年基準）、縦軸：高齢化率）



出所：国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）』

13

### 地域の問題を考えるためのキーワード

#### ソーシャルキャピタル

⇒信頼、互酬性、ネットワーク

#### 合理的無知

⇒合理的無知とは、人々にとって、何らかの行動をするための費用（機会費用も含む）が大きければ、「合理的」に「無知」を決め込む可能性があることを意味する。また、参加することから得られる利益と参加することで支払う費用を比較して、それがプラスであれば参加し、マイナスであれば参加しないというような合理的選択をすると考えれば、退出することで生じるコストも検討する可能性がある。

#### コレクティブ・インパクト

⇒異なる団体やグループが共有の目標を持ち、相互補完的に連携し合うことで、社会の課題解決を行う力を高めること。

14

## 町内自治会ワークショップ（前回出た意見）

(1) 世代間の交流・地域内の交流などを進めていくための方法について（含イベントの在り方）

### 子育てとイベント

- ・子育て親子が参加できるイベント
- ・子どもたちが元気になれるイベント
- ・子どもが参加できる魅力的な行事

### 既存住民と転入住民の交流

- ・既存住民（高齢者）と転入住民の交流がない
- ・外国人との接点が全くない
- ・新住民との交流の場を作りたい
- ・商業地域であり集合住宅の新しい住民との融合が進んでいない

### 高齢者と単身者も楽しめるイベント

- ・みんなで参加することができるイベント
- ・自分の地域に興味を持ってもらう
- ・単身者が参加できる魅力的な行事

### 地域で開催するに向けて

- ・公園でのキャンプファイヤー、グランピングの様なイベント
- ・行政からの活動に制約が多い
- ・with コロナでも感染拡大防止を促しながらのイベントの開催
- ・楽しい、やりがいがあると思ってもらうこと（実際の地域スポーツ団体のコーチなどを行っている人も多い）
- ・行事、イベントに若い人のやりたいことを多く取り入れる

(2) 他団体との連携の図り方や町内自治会の活動への動機づけ、報酬も含めたメリットの提供について

### 報酬制、メリットを作る

- ・参加したことによる報酬を用意する
- ・ボランティアではなく報酬制にする
- ・副業的にできるようにする。
- ・参加することでのメリットの提示、構築（子育て用品割引など）食事
- ・目的やメリットを正確に確実に伝える、特典があると参加する気持ちになる
- ・副業的に行えるようにする。

### メリットとデメリットの提示

- ・自治会活動に参加するメリットを伝えること
- ・メリットとデメリットを感じてもらう
- ・運営の透明性や効率性の実現（リモート会議などテクノロジーの活用）参加メリットの理解

#### 参加方法の改善

- ・自己都合により参加できないことを受け入れること（子育て世代に自身の子どもが優先させる）
- ・商業地区であっても町内会を持続察せていく必要性の浸透
- ・子どもたちの社会参加
- ・仕事や子育てを両立しやすい環境づくり
- ・地域の会合は直接集まって話すのが多いので、オンライン参加できればいいと思う
- ・家族全員が参加しやすい環境づくり、役員会の裏で子どもを預かってもらえる等
- ・子育て世代が住みやすいと感じる街づくり

### (3) 地域の課題や町内会の活動をどのように周知していくか、SNS の活用方法や情報開示・広報の方法などについて

#### 情報発信の場作り

- ・若い世代が参加しない理由が一番多いのが参加の仕方が分からないということ、SNS による情報発信を増やす
- ・学校区や地域の小規模なネット上の場所があると参加しやすくわかりやすい、一方方向の公式 LINE のようなもの、双方向は参加し難い
- ・SNS などのデジタル接点を活用した気軽・簡単に参加できる仕組み、費用（機械的含む）を犠牲にしたくない
- ・地域の不満を気軽に書き込めるサイトを作り参加を簡易化する
- ・インターネットを駆使した呼び込みをする
- ・コミュニケーションツールの多様化
- ・広報、知る機会、内容、目的など明確化
- ・まちの課題や提案を気軽に行える仕組み、またそれを周知・共有できる仕組みを作る
- ・SNS ツールを活用する
- ・プレ型の広報からプッシュ型（IT を利用した）の情報開示に変換する
- ・お互いに興味・関心を持ち支え合う環境創り、若い世代が楽しく盛り上げる
- ・若い世代の意見交換の場を作る。子連れでも参加できるようなコミュニティの場を作る
- ・課題を話し合うスペース

### (4) 学校教育との連携も含め、若年世代の参画の方法、こどもや若年世代、子育て世代が

## 参加できるイベントの在り方について

### 若者の世代間の交流について

- ・いきなり違う世代とかかかわると抵抗感があると思うので、同世代だけの交流の場を設けて慣れてきたら親睦を深めることによって参加しやすくする
- ・若い世代の参加が必要だということを自治会側がもっとアピールする
- ・きっちりとした感じではなく楽な感じにする、また若者は楽しみが必要
- ・町内自治会について学ぶ機会を得ること

### 学校との協力

- ・学校などでももっと町内自治会について教えること
- ・若い世代だからと言って強制するのではなく学校のカリキュラムとして講演会を行い、町内自治会などに参加する際に何をしているかわからないという疑問を無くす
- ・学校での教育

### 新入会者を増やすための取り組み

- ・地域活動の負担を減らしてほしい
- ・やってみたいという人を排除しないこと
- ・町内自治会のメンバーや活動内容、日時などを明るく楽しく紹介する、入りづらい敷居が高いと感じさせない
- ・活動する日にちをできる限り少なくする、かつ参加は自由にする

## (5)DX も含め町内自治会活動の運営方法の見直しについて

### 自治会の DX 化

- ・時間を確保しやすい日程に分散、土曜（朝）、オンライン等
- ・自治会へ参加しやすい形に（地域運営委員をつくる）
- ・参加の多様化
- ・現役の時間の無さや意識に多少は合わせる
- ・自治会の IT 化など
- ・見守りが少ない

### 予算の改革

- ・自治会の世代交代
- ・予算の獲得（法人化）
- ・寄付
- ・手数料収入
- ・企業・商店街とのタイアップ
- ・自治会費の財源を増やす、利益をあげる
- ・事務作業の IT 化ペーパーレス化

### 災害・非常時の対応



- ・町内会他地域の主要5団体がどう結束していくか？
- ・地域活動をもっとわかりやすく可視化することによって、そもそも何をしているのかわかりやすくする
- ・誰もが負担にならない活動であるのが望ましい
- ・20～50代の世代が地域での役割小さく緩く受け持つこと、強制はされないがちょっと感謝されるような
- ・災害多発の時代であることや近隣避難所の運営や主な備蓄品などの周知を行う
- ・定期的に高齢者の方々の安否確認などをして行ってほしい（市の安心電話版のような）
- ・知役所と避難所（学校）自治会（住民）との連携がとれていない（2～3年の台風時）
  - ・安心感。みんなで協力している感じ？
- ・小学校や中学の防災訓練は地域の人と一緒にいけば、効果も上がるし地域の活動を子どもの頃から理解する一つになるのではないか。

**(6) 地元愛を高め、みんなでまちづくりを行うための方法について（目標を設定、計画の策定、話し合いの工夫、財源の確保方法など）**

**対策に向けて**

- ・何を行うのかが分かる自治会業務の可視化マニュアルの必要性
- ・住民と自治会が気軽に話し合える場を設けることが重要になると考える
- ・各種申請手続き（補助金など）の簡略化
- ・市の施設の無償化、市が運営する体育館やトレーニングジムの無償化
- ・地域活動の拠点となるビジネスも可能なハコの整備
- ・社協、民生、青少年育成の他団体の「福祉」の活動の混在
- ・社協、民生委員との関係性

**地元愛の創出**

- ・共通の目標、ゴールを掲げて解決するプロジェクト型の参加スタイル
- ・いつまでも空き地の公有地の活用、民間に売却して民間に任せる
- ・タウンマネジメントの不在
- ・高州コミュニティセンターの建て替え、古くて若い人が寄り付かない
- ・“自分の”感があればいい
- ・古い地域でつながりや役割も機能しているのか？高齢少子化地の為、災害時に不安
- ・核家族が増えている今、孤立してしまわないようにお互いをサポートできる環境が必要、サザエさんのような町創り、世代交代、古きものは残して新しきものを取り入れる
- ・透明性、何をやっているのかわかりやすく、ファシリテーターやコーディネーター

## 第1回 町内自治会ワークショップ

日時：2022年11月12日（土）10時～12時30分

会場：淑徳大学千葉キャンパス 15号館 15-302教室、15-401教室、15-402教室

本日の議題

### 1. 事前勉強会の振り返り及びグループの設定についての説明（10時～10時15分）

全体会場（15-302教室）で、事前勉強会の振り返り及びグループの設定について説明いたします。

### 2. グループに分かれての討議（10時20分～11時40分）

(1)世代間の交流・地域内の交流などを進めていくための方法について（含イベントの在り方）、(2)他団体との連携の回り方や町内自治会の活動への動機づけ、報酬も含めたメリットの提供について、(3)地域の課題や町内自治会の活動をどのように周知していくか、SNSの活用方法や情報開示・広報の方法などについて

のグループの方は、15-401教室

(4)学校教育との連携も含め、若年世代の参画の方法、こどもや若年世代、子育て世代が参加できるイベントの在り方について、(5)DXも含め町内自治会活動の運営方法の見直しについて、(6)地元愛を高め、みんなでまちづくりを行うための方法について（目標を設定、計画の策定、話し合いの工夫、財源の確保方法など）

のグループの方は、15-402教室

に分かれて頂き、グループごとに議論をいただきます。

①各テーマに基づき、「現在、どのような課題があるのか（現状把握）」について、付箋紙を活用して、お一人ずつ書き出していただきます。書き出していただいた付箋紙を見ながら、分類をし、グループとして考える「課題」を整理いただければと思います。

②整理頂いた課題、それぞれについて、「その課題を解決するための方法には、どのような方法があるのか」ということについて、付箋紙を活用して、お一人ずつ書き出していただきます。書き出していただいた付箋紙を見ながら、分類をし、グループとして考える「解決方法」を整理いただければと思います。

③ご検討いただいた「解決方法」について、A.地域が主体的にできること、B.地域と行政が連携してできること、C.行政が行うことの3つに分類してください。その上で、AとBについて、どのようにすれば、地域自らが（行政とも連携しながら）、課題解決を行うこ

とができるのか、そのために必要な資源（人的資源、お金、場所など）は何か、どのようにすれば、その資源を確保することができるのか、また、行政とどのように連携することが可能か、ということについて議論いただき、内容をまとめていただければ幸いです。

3. グループでの討議内容の発表・共有（11時45分～12時15分）

15-302 教室にお戻りいただき、各グループでの議論内容を1グループ最大5分で発表いただければ幸いです。

4. まとめ（12時15分～12時30分）

皆さんからの発表を踏まえ、本日の内容をまとめます。

## 町内自治会ワークショップ 今後の検討に向けて

(1) 世代間の交流・地域内の交流などを進めていくための方法について（含イベントの在り方）

### 【第1回ワークショップ発表内容】

#### A 課題

機能している自治会、そうでない自治会がある  
世代間の交流が難しい

#### B 解決策

行政を窓口にして、小中学校とのやり取りやプロジェクトの連携を行う  
高齢者に子供がボランティアで SNS の使い方を教える

#### C 地域でのやれること

地域コーディネーター、相談役つなげ役を担う

#### 地域と行政でやれること

いろんな地域の人つなげてくれる場をつくる

#### 行政でやれること

それらの仕組みを円滑に運営できる仕組みづくり

### 【コメント】

地域内の交流を進めていくためには、町内自治会と地域の関係団体や NPO とつないでいく、「地域コーディネーター」（つなぎ役）の存在が重要だと思いました。今後の議論としては、行政以外の第三の存在として、地域をつなぐ「地域コーディネーター」の仕組み、コーディネーターに必要な知識やスキル、などについて検討を進めて頂ければ幸いです。この際に、ひばりが丘団地の「まちにわ師」（<https://machiniwa-hibari.org/>）の事例も参考にしていただけると幸いです。

また、地域内の交流を進めていくためには、交流イベントの企画も重要と思います。下記の参考事例も踏まえ、検討頂ければ幸いです。

### 【ご参考】

韋駄天カフェ（神奈川県川崎市多摩区稲目町会、大道自治会、大谷自治会）

<https://rarea.events/event/144113>

韋駄天カフェは 2019 年に始動。民生委員や専修大の学生、地域包括支援センター等も含む有志が実行委員となり、東生田会館で月 1 回を基本に開催。茶話会や外遊び、体操のほか季節の行事もある。大人 200 円、子ども 50 円の参加費に地域通貨「たま」が使用可能。

### 三世代交流会（神奈川県横浜市佐江戸加賀原地区）

[http://tsuzuki-shakyo.sakura.ne.jp/sblo\\_files/tuzuki-tikushakyo/image/saedokagahara\\_09\\_naka.pdf](http://tsuzuki-shakyo.sakura.ne.jp/sblo_files/tuzuki-tikushakyo/image/saedokagahara_09_naka.pdf)

佐江戸加賀原地区連合町内会では年に 2 回、夏と冬に『三世代交流会』という大規模な多世代交流が開催。夏は流しそうめん、冬は餅つきを主とし、そのほか綿菓子、フライドポテト等、6～8つの模擬店が出店。参加団体は7つの自治会町内会、民生委員・児童委員、保健活動推進員のほか、シニアクラブ、都田西小学校おやじの会、消防団や地域の障害者施設が協力。さらに川和中学校、都田中学校から 10 名～20 名の中学生がボランティアとして協力。

(2) 他団体との連携の図り方や町内自治会の活動への動機づけ、報酬も含めたメリットの提供について

**【第1回ワークショップ発表内容】**

**A 課題**

他団体との重複者が多く、情報が広がりにくい（役員の固定化）  
地域の情報をなかなか知ることができない  
他団体との交流ができていない

**B 解決策**

世代ごとの窓口を知り、他団体とも連携する  
子供たちに参加してもらい、新たな世代が入りやすくする

**C 地域でやれること**

費用の内訳が見える化する  
報酬が支払われる仕組みを作る

**地域と行政でやれること**

自治会の紹介の場、FM ラジオなどで町内会の紹介をする

**行政でやれること**

子供たちが参加するように声がけする  
勉強会、ワークショップを企画

**【コメント】**

町内自治会の活動を持続可能な形にしていくためには、「報酬」の仕組みも考えていく必要があると思いました。報酬と言っても、単に労働の対価を支払う金銭的な対価に限る必要もないかもしれません。地域通貨や地域ポイントのような形もあるかもしれません。その事例としては、神奈川県藤野町（現相模原市）の「よろづ屋」の事例は興味深いと言えます。（[https://greenz.jp/2018/07/19/ikashiau\\_yorozuya/](https://greenz.jp/2018/07/19/ikashiau_yorozuya/)）

また、近年では、面白法人カヤックが提供する「まちのコイン」の取り組みも面白い事例です。（<https://coin.machino.co/>）

このような事例を踏まえて、地域が相互に助け合うことができる仕組みをどのように作っていくかということを検討いただければ幸いです。

**【ご参考】**

**自治体加入特典（丸亀市川西地区地域づくり推進協議会）**

<https://kawanishi-town.com/%E5%8A%A0%E5%85%A5%E8%80%85%E7%89%B9%E5%85%B8/>

川西自治会に加入するとスーパーなどの川西町の様々な店舗で割引を受けられる他、毎月行われる様々なクラブ活動にも参加可能。

### 地域活動ポイント制度（神奈川県相模原市中和田自治会）

<https://www.nakawada.jp/%e8%87%aa%e6%b2%bb%e4%bc%9a%e3%81%ab%e5%85%a5%e3%82%8d%e3%81%86%ef%bc%81/>

自治会活動などの地域性の高い活動に対して、マイナンバーカードを活用した『地域活動ポイント』を付与される。商店街や加盟店にてお買い物に使用可能。さらに、立場が上になるほどポイントが増える。

### 自治体カード（埼玉県春日部市自治会連合会）

[http://kasukabe-jichiren.net/card\\_1.html](http://kasukabe-jichiren.net/card_1.html)

家族で共有する避難場所の記入や、最新の防災情報が得られるQRコードの掲載など災害時の安否確認の他、商店などでのサービスが受けられるようになる。

(3)地域の課題や町内会の活動をどのように周知していくか、SNSの活用方法や情報開示・広報の方法などについて

**【第1回ワークショップ発表内容】**

**A 課題**

情報媒体が煩雑（紙だったり、IT だったり）  
課題の見える化ができていない  
SNS 活用がうまくできていない  
SNS の管理者を誰にやってもらうか  
高齢者の情報機器への対応

**B 解決策**

学校との連携を行う  
マンションの管理組合などとも連携する  
誰もが気軽に情報を発信できる SNS（リアクションができるもの）をつくる  
若者や SNS を使いこなせる人に報酬を払ってスマホ教室を企画  
地域内に SNS や IT に詳しい人がいるかなどの情報を知る（町内の把握）  
若い世代と高齢者とのつながりの場をつくる  
IT と紙ベースの併用

**C 地域でやれること**

若者がスマホや SNS、高齢者が生活の経験や知恵などを教え合える場をつくる  
他団体との連携する

**地域と行政でやれること**

地域から上がった情報を取捨選択する  
オンラインでいろんな世代が対話できる場をつくる

**行政のやれること**

IT の場の提供（安心感の提供）  
千葉レポのような SNS をつくる  
学校で地域貢献を評価する仕組みや制度をつくる

**【コメント】**

町内自治会の活動を周知していくためには、①関心を持ってもらうこと、②情報を手に入りやすくすること、の 2 点が重要だと思いました。SNS 等の手段は、「②情報を手に入りやすくすること」には有効ですが、課題としては、情報の出し手側もスキルが必要ですし、実は情報の受け手側もスキルが必要です。このスキルの向上のためのサポート方法をより具体的に検討いただければ幸いです。

また、どんなに情報が手に入りやすくても、関心を持ってもらえないと、情報は伝わって



いきません。そこで、どのようにすれば、町内自治会の活動に関心を持ってもらうことができるか、ということについても検討頂ければ幸いです。

#### 【ご参考】

##### 久保田西部連合会新聞の発行（福島県郡山市富久山町久保田西部連合会）

<https://www.city.koriyama.lg.jp/uploaded/attachment/34050.pdf>

平成 24 年 2 月に地区内で通学路の除染を行った際に地区内の 6 つの町内会が協力して久保田西部連合会として活動。連合会としての意識を忘れず、連合会としての活動をより住民の身近なものとするため当時の名称で「久保田西部連合町内会新聞」を発行。

##### 自治会加入は自治会を知ってもらうところから！（神奈川県相模原市中丸自治会）

[https://www.sagamihara-jichiren.jp/document/tiikiriyoku1\\_case3.pdf](https://www.sagamihara-jichiren.jp/document/tiikiriyoku1_case3.pdf)

地域に関する情報を積極的に収集、さらに自治会の活動が自治会の変遷と活動が一目で分かる『中丸変遷史』の発行。自治会の役割や活動について、しっかりと明文化し住民に説明。

##### いちのいち（東京都町田市、神奈川県秦野市など）

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000255.000052170.html>

小田急電鉄株式会社が開発。自治会・町内会が抱えている担い手不足や回覧板の煩雑さ、若年層を中心とした地域とのつながりの希薄化、高齢者の社会的孤立などの課題を、住民の方が主体となって解決するためにつくられた自治会・町内会向けの SNS。自治会・町内会運営者がコミュニティ管理。

(4) 学校教育との連携も含め、若年世代の参画の方法、こどもや若年世代、子育て世代が参加できるイベントの在り方について

**【第1回ワークショップ発表内容】**

**A 課題**

世代ごとにある情報格差  
子育て世代に向けての発信情報が多すぎる  
課題などが見える化ができていない  
コロナで交流の場がつかれない

**B 課題解決**

世代による情報収集が違うことを理解し、相互から情報発信していく

**C 地域でやれること**

課題を見える化して、解決策を絞ってやっていく

**地域と行政でやれること**

保護者の世代と子どもたちが参加できる、参加型のイベントをつくる  
魅力ある話題づくりをやる

**行政でやれること**

今に適した仕組みや制度をつくる

**【コメント】**

こどもや若者が地域の「当事者」として、主体的に地域の活動に関与し、こどもや若者の意見を反映させていく仕組みを作っていくことが重要だと考えています。町内自治会の活動においても、ある部分は、こどもや若者、もしくは子育て世代の保護者の方に企画を考えてもらう、また、それを実際にやってみてもらう、ということを行っても良いようにも思いました。そこで、町内自治会の活動の中で、実際にこどもや若者、子育て世代の保護者に実際に取り組んでもらう活動とはどのようなものかを考えていただけると幸いです。また、千葉市こども若者市役所との連携もご検討ください。

( <https://www.city.chiba.jp/kodomomirai/kodomomirai/kikaku/kodomowakamonoshiyakusy.html> )

学校との連携については、特に防災の関係で言えば、中学校との連携は重要な気がいたします。日中に災害が発生した場合に、高校生以上は、地元から離れた学校に通学しているかもしれませんし、大人は地元から離れた職場に通勤しているかもしれません。地元で多くいるのは中学生。中学生が災害発生時に学校単位で、地域の防災に関わってくれれば心強いと思います。

**【ご参考】**

### 三世代交流昼食会（大分県大分市金池南2丁目・要町2町内会）

<https://www.city.oita.oita.jp/o040/kurashi/volunteer/documents/h29zireisyuu.pdf>

交流昼食会を開催し、幼児9名、小学生25名、中学生4名、高校生1名、保護者29名と年長者の町内会役員を合わせ、78名が参加。それ以外にも町内の防災士からの防災講話、ビンゴゲームが開催。

### 参加しやすい自治会づくり（神奈川県相模原市小山二丁目自治会）

[https://www.sagamihara-jichiren.jp/document/tiikiriyokul\\_case3.pdf](https://www.sagamihara-jichiren.jp/document/tiikiriyokul_case3.pdf)

マンション・賃貸アパートの居住者を「特別会員」、地域内の事業者を「賛助会員」、常時活動への参加が難しい会員などを「協力員」として、それぞれの会員の立場やライフスタイルに合わせて、活動への参加や協力ができる仕組みを作っている。

## (5)DX も含め町内自治会活動の運営方法の見直しについて

### 【第1回ワークショップ発表内容】

#### A 課題

##### 自治会活動

- 自治会活動に若い人がいない
- 自治会活動の都合がつかない
- 会費が不透明で会費が高い
- 加入方法がわからない

##### DX 化

- DX 化を賛成する人と反対する人で対立がある
- DX に係るリテラシーを考慮する人材がいない

#### B 解決策

- DX 化の会議に参加しやすくする
- SNS などを活用して役割などを伝える
- 会費に内訳の透明化

#### C 地域でできること

- 行政に向けて様々な情報を知らせること

##### 地域と行政でできること

- DX 化に慣れていない人に対して、地域の学生に教えてもらう場をつくる

##### 行政ができること

- DX 化のリテラシー向上するための講座をやる
- 各世代に DX 化などのメリット、デメリットを提示する

### 【コメント】

DX を進めるためには、町内自治会の仕事（業務）について、どれをデジタル化できるかということ細かく精査できると良いと思いました。DX を検討する際には、まず、その仕事のプロセスの明示化を行います。例えば、地域の情報を共有したいということと考えます。このとき、①地域の情報を集める、②回覧板の内容を編集する、③回覧板の内容を印刷する、④回覧板を地域内に回す、というような 4 つのプロセスが発生するとします。

ここで、①②③④のどれがデジタル化できるか、またはデジタル化すると効果的かということを考えてみます。もちろん、全てデジタル化できるかもしれませんが、一部かもしれません。このような形で、①回覧板の電子化、②会費の徴収と収入・支出の内訳を共有するための仕組み、③災害時の安否確認について、それぞれの業務プロセスを整理いただき、それらの業務について、どのようにデジタル化できるか、ということを検討いただくと、

町内自治会の運営の見直しにつながるかと思います。

**【ご参考】**

**「結ネット」町内会 DX 推進事業（福島県郡山市）**

<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/33/30647.html>

モデル町内会（12 町内会）を対象に町内会の情報配信（回覧板の電子化）、地域行事や会議などの出欠確認、協議事項の賛否確認（電子表決）、市からの情報（ふれあいネットワーク情報など）の受信、災害時の安否確認を実施。

**自治会活動の見える化（横浜市神奈川区神大寺 神大寺町自治会）**

<https://kandaiji-kitachou.jimdofree.com/>

回覧板や各部会の活動を非自治会員に向けて情報発信を発信している。ホームページは、の運営は、神大寺北町自治会のデジタル広報部会のメンバーで行われている。

(6) 地元愛を高め、みんなでまちづくりを行うための方法について（目標を設定、計画の策定、話し合いの工夫、財源の確保方法など）対策に向けて

**【第1回ワークショップ発表内容】**

**A 課題**

自治会が何やっているのかわからない  
役員の固定化  
課題が可視化、共有できていない

**B 解決策**

各地域の課題は何かと認識すること  
地域へのリソースはあるのか考える  
はじめにコミュニティづくり懇談会を作り、そこから地域運営委員会を結成させる  
行政の縦割りの組織の中に、それを越えた横のつながりをつくる

**C 地域でやれること**

高齢者の見守り、行政から委託を受ける  
役割分担をする

**地域と行政でやれること**

いつも開いていて人のいる自治会館をつくる、そこでうまく情報共有ができる仕組みをつくる

**行政がやれること**

情報共有がしやすい仕組みを作っていく

**【コメント】**

このグループでの検討内容は幅広く、検討が難しかったと思います。今後の方向性としては、2点に絞って、ご検討いただければ幸いです。

第1点目は、「地元愛」を高める仕組みです。「地元愛」は、「シビックプライド」や「都市アイデンティティ」、「地域への愛着」などの表現があります。自分が住んでいる地域のことを好きで、地元を誇りを持っている人々が多い地域では、自分たちの地域を守り、より良くするために、主体的に、かつ、当事者として行動してくれるに違いない、という仮説を持っています。このように考えると、まちづくりの第一歩は、地域の皆さんが、自分たちの地域のことを好きになってくれること、自分たちの地域を誇りを持つこと、こうした「マインド」の醸成だと思います。それをどのようにすれば実現できるのか、ということについてご検討いただければと思います。

第2点目は、町内自治会の独自財源の確保についてです。多様な町内自治会の活動を進めていくためには、会費以外の財源も獲得していくことが必要だと思います。すなわち、町内自治会も「儲ける」（儲けるといっても、利益を出したり、配当したりするということ

ではありません。活動資金を自ら獲得していくこと、とご考えてください。) 仕組みが必要だと思えます。社会や地域の課題解決に寄与するソーシャルビジネスやコミュニティビジネスに取り組むということも選択肢として考えられるかもしれません。または、民間企業と連携して、地域にお金が回る仕組みを作るということも考えられるかもしれません。例えば、松阪市の事例（地域の元気応援事業、ふるさと応援寄附金など）や松阪市宇気郷地区の取り組みなども参考にさせていただくとともに、イオンの幸せの黄色いレシートなども参考にさせていただきます。

<https://www.city.matsusaka.mie.jp/site/jyuminkyogikai/>

[https://www.sato.pref.mie.lg.jp/facility\\_single/?id=74](https://www.sato.pref.mie.lg.jp/facility_single/?id=74)

### 【ご参考】

#### 「ふるさと」をつくる人材の育成（北海道浦河郡浦河町）

<https://www.town.urakawa.hokkaido.jp/chousei/keikaku/sogokeikaku/files/4.pdf>

学校の総合の時間を利用して、自然体験講座、子ども文化スポーツ講座、まちづくり高校生会議や青少年文化活動支援事業、学校授業などへの支援（浦子屋事業）を実施して、子どもたちに地域に愛着を持ってもらう。

#### 花と緑で活力のある地域づくり～耕作放棄地の解消とその有効対策の試み～（大分県大分市岡原自治会 NPO法人 岡原花咲かそう会）

<https://www.city.oita.oita.jp/o040/kurashi/volunteer/documents/h29zireisyuu.pdf>

耕作放棄地の有効活用の試みとして、①春秋の花公園づくり②栽培体験農場・農田の設営と、加えて③地域の環境保全・美化活動④花苗の育苗と公共機関への配付等を行っている。地域内及び大分スポーツ公園周辺の環境保全や美化活動を通して、青少年・高齢者も交えた交流の場を設定し、地域づくりの推進に寄与することを目的としている。

#### 松井地区文化歴史遺産・自然環境遺産認定事業

<https://matuimura.net/isanhokoku.html>

松井まちづくり協議会で、松井地区に所在する文化、歴史、自然、環境を後世に継承するために、「松井まちづくり協議会認定遺産」として制定して保存と活用が行われている。文化歴史遺産、自然環境遺産を決定し認定して標識などを立てて発信している。